



編集方針

「先を見据え、よりブライトな世界を創る」という使命に基づく「企業姿勢」と「事業活動」をステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えします。

「AGCLレポート」は、AGCグループの「企業姿勢」と「事業活動」をお伝えする年次報告書です。2014年版では、中期経営計画“**Grow Beyond-2015**”の進捗をご報告するとともに、「市場」「地球」「人」という切り口で、AGCグループの特長的な取り組みをご紹介します。なお、財務・非財務情報の詳細は、ホームページをご覧ください。

ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めるさまざまなツール

<p>財務情報</p>  <p>フィナンシャル・レビュー (PDFファイルのみ)</p> <p>事業概況および連結財務諸表を含む財務内容を報告。 (英語版のみ)</p>	<p>企業姿勢と事業活動を理解いただくために</p>  <p>AGCLレポート 2014 (本レポート)</p>	<p>非財務情報(サステナビリティ報告)</p>  <p>CSRホームページ www.agc.com/csr/</p> <p>AGCグループが果たす社会的責任を網羅的に報告。G4(注1)の「中核」に準拠。</p> <p>(注1) GRI「サステナビリティ・レポート・ディング・ガイドライン第4版」</p>	 <p>CSR情報 資料編 (PDFファイルのみ)</p> <p>非財務データ、CSR活動に係る各種方針・推進体制を報告。</p>
<p>総合的な情報の閲覧に</p> 		<p>AGCホームページ www.agc.com</p> <p>AGCグループに関する情報を幅広く、詳しく、タイムリーに発信。</p>	

報告対象範囲

- | | |
|----------------|--|
| ● 報告対象期間 | 2013年度(2013年1月~12月) 一部の情報は2012年度および2014年度の内容を含みます。 |
| ● 報告対象組織 | 旭硝子(株)および連結対象の国内外グループ会社200社 |
| ● 文中の主な表記と報告対象 | AGCグループ 上記の「報告対象組織」と同様
AGCグループ(日本) 旭硝子(株)を含む国内のグループ会社
AGC旭硝子/当社 旭硝子(株)(単独) |

関連情報

WEB このマークが付いている内容は、関連情報が「AGCホームページ」に掲載されています。

“Look Beyond”

私たちの使命——先を見据え、よりブライトな世界を創ります。

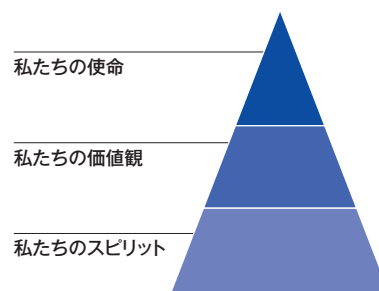
私たちは、

“Look Beyond”・・・将来を見据え

“Look Beyond”・・・自らの領域を超えた視点を持ち

“Look Beyond”・・・現状に満足せず飽くなき革新を追求し

グループ全体が持つ大きな潜在力を発揮し、世界に価値を提供し続けます。



私たちの価値観

革新と卓越 イノベーション&オペレーショナル・エクセレンス

- 既成の概念や枠組みにとらわれない発想で、常に革新的な技術、製品、サービスを追求します。
- 常にお客様の視点に立つとともに、社会や市場の変化を予測し、潜在的・将来的なお客様のニーズに応える、新たな価値を創造し続けます。
- あらゆる活動において最高の効率と品質を目指して不断の改善を行い、常に、実現し得る最高の仕事をします。

➔ 関連情報 …… p.15

多様性 ダイバーシティ

- 多様な能力、個性を持った個人を尊重し、国籍、性別、経歴にこだわらないグローバル経営を展開します。
- 人種、民族、宗教、言語、国籍にこだわらず、多様な文化を尊重します。
- 常に異なった視点・意見を尊重します。

➔ 関連情報 …… p.29

環境 エンバイロメント

- 善き地球市民として、自然との調和を目指し、持続可能な社会づくりに貢献します。
- 安全で健康的な職場環境の向上に努めます。

➔ 関連情報 …… p.23

誠実 インテグリティ

- 高い倫理観に基づき、あらゆる関係者と透明・公正な関係を築きます。
- 法令や規制を厳格に遵守します。
- 提供するあらゆる製品・サービスについて、お客様の満足と信頼を得るための責任を全うします。

➔ 関連情報 …… p.37

グループビジョン・経営方針などの体系図

グループビジョン “Look Beyond”

AGCグループのすべての事業活動、社会活動を貫く企業理念であり、将来にわたり継続すべきものです。

経営方針 *Grow Beyond*

グループの事業活動の具体的な方針であり、経営環境の変化や自社の状況に応じて、必要であれば見直していくべきものです。

WEB www.agc.com/ir/pdf/gaiyou.pdf

企業行動憲章

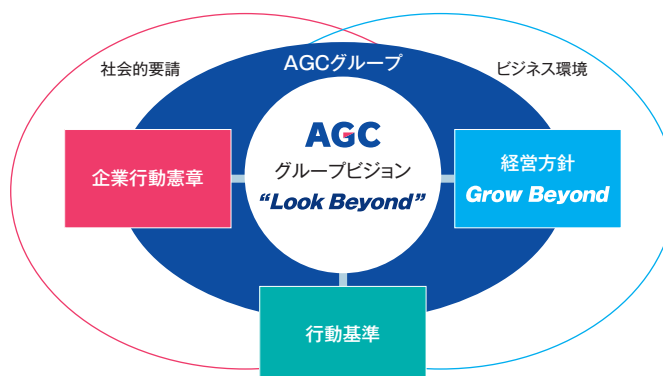
AGCグループが善良な企業市民であるために行動の基盤とすべき考え方を定め、社会に対して宣言したものです。

WEB www.agc.com/csr/agcgroupcsr/policy.html#acMng

行動基準

グループメンバーが仕事をする上で遵守しなければならない事項をまとめたものです。

WEB www.agc.com/csr/integrity/coc.html



真に強いAGCグループを目指して——

AGCグループの「企業姿勢」と「事業活動」を
「市場」「地球」「人」という3つの切り口でお伝えします。



目次

トップメッセージ	5
中期経営計画の進捗報告	7
財務・非財務ハイライト	9
AGCグループの概要	11
グローバルネットワーク	13



Chapter I

市場へ

15

「快適な生活・空間領域」
「クリアな映像・通信領域」
「クリーン&グリーンなエネルギー領域」
これらの“3つの事業ドメイン”で創出する
AGCグループ独自の価値をご紹介します。

事業ドメイン1	
快適な生活・空間領域	17
事業ドメイン2	
クリアな映像・通信領域	19
事業ドメイン3	
クリーン&グリーンなエネルギー領域	21

Chapter II

地球へ

23

環境マネジメントにおける重要テーマの一つ
「エネルギー問題への取り組み」について、
「生産活動」と「環境関連製品」を通じた
エネルギー使用量削減への施策を
ご紹介します。



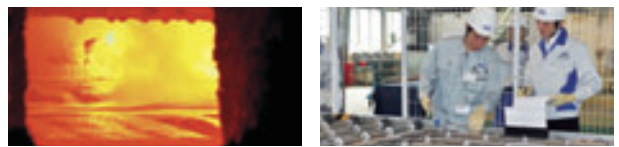
活動ハイライト1 生産活動にともなうエネルギー削減	
グローバルに広げる、省エネへの創意工夫。	25
活動ハイライト2 環境関連製品を通じたエネルギー削減	
AGCグループの省エネ・創エネ製品強化宣言。	27

Chapter III

人へ

29

経営方針 **Grow Beyond** で
事業活動のバックボーンに掲げる
「人は力なり」と
「安全なくして生産なし」の
取り組みをご紹介します。



活動ハイライト1 人材育成	
組織の枠を超えた交流が生み出す“気づき”。	31
活動ハイライト2 労働安全衛生	
安全な職場づくりを実現するために。	33
社会貢献活動	35
リスクマネジメント/コンプライアンス/知的財産	37
コーポレート・ガバナンス	39
取締役・監査役および執行役員	42

トップメッセージ

AGCグループは、「2020年のありたい姿」において、持続可能な社会に貢献している企業として、売上高2兆円以上を達成し、高収益・高成長のグローバル優良企業になることを目指しています。

2020年のありたい姿

AGCグループは、

『持続可能な社会に貢献している企業』として、

- 差別化された強い技術力を持ち、
 - 製品のみならず、生産工程・事業活動全般に亘って環境に配慮し、
 - 新興地域の発展にも寄与する、
- 高収益・高成長のグローバル優良企業でありたい。

そして2013年度より、中期経営計画“**Grow Beyond-2015**”のもと、真に強いAGCグループの実現を目指し、「成長基盤の強化・定着」と「業績を上昇トレンドに反転」の2つを課題として、成長に向けた施策を推進してきました。

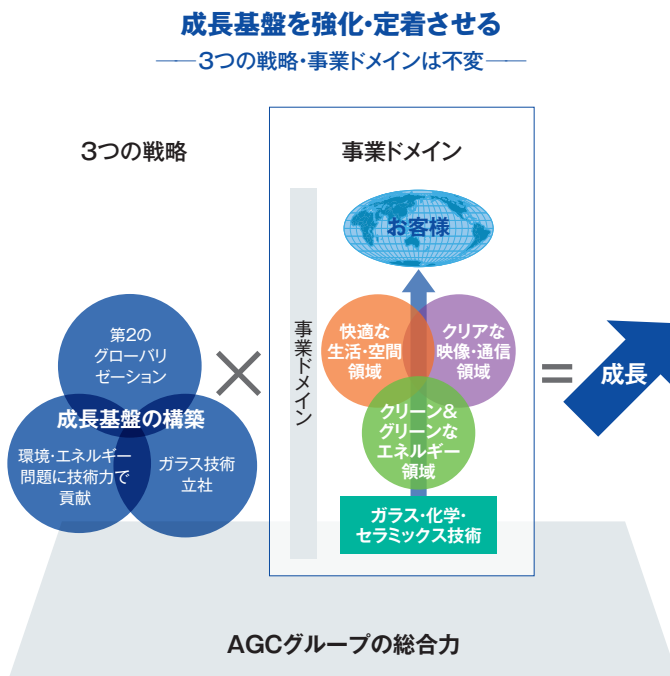
しかしながら、初年度である2013年度の業績は、円安等の影響で前年度に比べて増収となったものの、欧州建築用ガラスや電子関連製品の価格下落等の影響で減益となりました。

2014年度は、「2020年のありたい姿」を実現するための3つの戦略「ガラス技術立社」「環境・エネルギー問題に技術力で貢献」「第2のグローバル化」を、3つの事業領域において引き続き推し進めます。そして、



これらの戦略を実現するための戦術を加速して転換・進化させると同時に、AGCグループが独自に持つ「素材・技術」「市場」「事業地域」のそれぞれの多様性を「総合力」という強みに変えることで、競争力を高めて参ります。その具体的な取り組みの一部を、以降に続くページでご紹介していますので、ぜひご一読ください。

AGCグループは、グループビジョン“**Look Beyond**”で、「先を見据え、よりブライトな世界を創る」ことを「私たちの使命」として掲げています。卓越した製品・サービスを通じて、人々の暮らしや、環境を含む社会全体を、より快適に、より便利に、より豊かにすることが、私たちの存在意義です。この使命を全うすることで成長し、皆様から信頼され、期待していただけるAGCグループをつくり上げていきます。



暮らしや社会をより快適に、より便利に、より豊かに。
この使命を全うすることで成長し、
皆様から信頼され、期待していただける
真に強いAGCグループをつくり上げていきます。

代表取締役・社長執行役員・CEO

石村和彦

“Grow Beyond-2015”の進捗報告

中期経営計画“Grow Beyond-2015”では、真に強いAGCグループの実現を目指し、「業績を上昇トレンドに反転」「成長基盤の強化・定着」の2つを課題としています。

2013年は、業績反転に向けた諸施策を積極的に展開したものの、円安によるディスプレイ事業の収益性低下や、欧州建築用ガラス事業の回復遅れなどにより、営業利益が799億円(対前年比21.5%減)でのスタートとなりました(売上高など業績の詳細はp.9参照)。

2020年の売上高比率目標への進捗

新興国での売上比率が大幅に成長

AGCグループは、2020年に「新興国」「環境関連製品」「新製品」の売上高比率をそれぞれ30%以上にするという目標を掲げています。その進捗は、図1の通りです。

「新興国」では、中国を含むアジアにおいて、さまざまな事業強化施策を展開した結果、24%と大きく成長しました。「環境関連」は、ソーラー発電用カバーガラスなどの不振により、15%にとどまりました。また「新製品」においては、主に電子関連部材の売上が貢献して、12%へ伸ばしました。

目標数値の見直し

設備投資や研究開発費を抑えるとともにROE目標の達成スケジュールを見直し

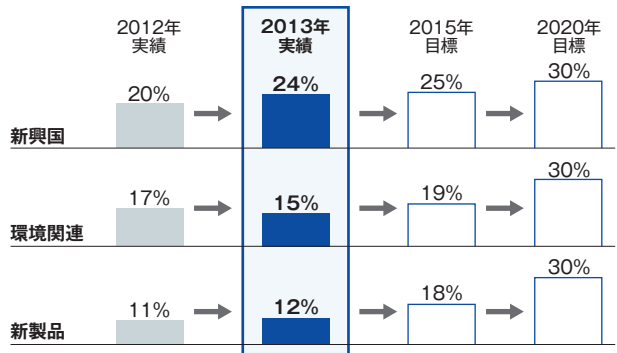
中期経営計画の2年目をスタートするにあたり、これらの業績や事業環境の変化を踏まえて、中期経営計画で定めた目標数値の一部を見直しました(図2・図3参照)。

設備投資については、2014年から2015年までの投資額を、当初計画から約200億円削減し2,800億円としました。この見直しを踏まえて、今後は新興国関連を中心に案件を厳選し、減価償却の範囲内に抑えるものとします。

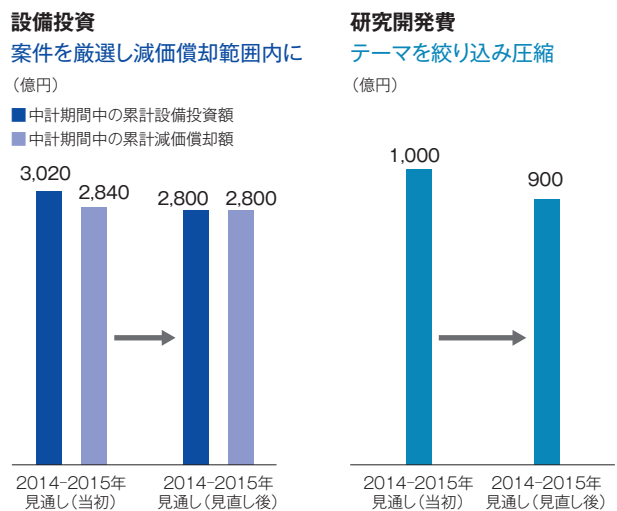
研究開発費も同様に、当初計画から100億円削減して900億円としました。高付加価値・高性能ガラスの商品開発や、製造プロセスの開発・改良技術、フッ素化学品関連研究開発など、重点分野に研究費を集中させます。

また、ROE(自己資本利益率)については、2015年の目標としていた12%以上の達成時期を2020年とし、短期的な目標を5%以上に見直しました(図3参照)。

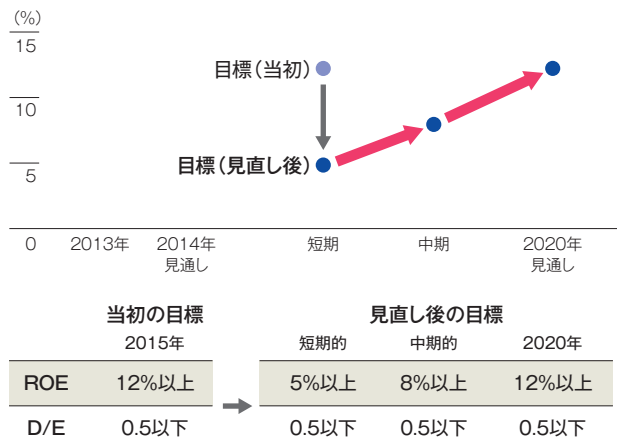
【図1】2020年の売上比率目標に対する進捗



【図2】設備投資および研究開発費の見直し



【図3】ROE目標の推移イメージ



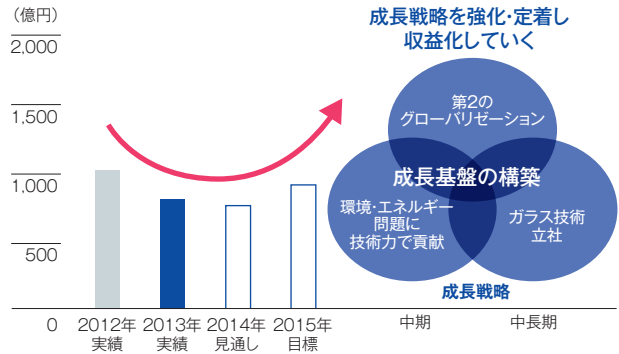
2014年以降の取り組み

真に強いAGCグループの実現に向けて
重点課題を確実・迅速に推進

2014年以降、真に強いAGCグループを実現するために、計画スタート時に掲げた2つの課題にそれぞれ3つの重点課題を設定しました。

これらの施策を確実・迅速に推進することで、中期経営計画の期間中に業績を反転させ、再び成長軌道へと戻します。

営業利益の推移 (2012年~2015年目標)



2014年以降の重点課題

課題1 業績を 上昇トレンドに 反転	重点課題1 ガラス事業の 収益改善	欧州における板ガラス事業の構造改革を進めるとともに、北米における建築用ガラス事業の販売強化やコスト改善に努めます。これらの施策により、ガラス事業全体としての収益性を改善します。
	重点課題2 ディスプレイ事業の 収益性低下への対応	成長が見込まれる中国市場や中小型ディスプレイ市場での伸長を図ります。また、高効率設備の導入や、生産拠点の全体最適化によってコストダウンを推進し、収益性低下を最小限に留めます。
	重点課題3 全社的な体質強化	グループ全体の体質強化に向けて、全社横断的なプロジェクトによるコスト削減を推進します。研究・開発から販売・管理に至る全社のあらゆる部門において、効率化を図ります。
課題2 成長基盤の 強化・定着	重点課題1 新興国での事業強化	2010年以降積極的に進めてきた投資によって、新興国での事業基盤はより強固なものとなっています。この基盤を活かすとともに、高い収益性を見込める市場には積極的に投資をすることで、新興国市場の成長を収益へ確実に取り込みます。
	重点課題2 新製品の 投入加速・拡販	3つの事業ドメイン (p.15参照) において新製品の投入と拡販を進め、その収益化を加速します。代表例である化学強化ガラスについては、輸送機器、ソーラー発電、建材分野などでの多用途展開により、一層の拡販を図ります。
	重点課題3 化学品事業の伸長	化学品事業は、「新興国」「新製品」という成長ドライブにより最も成長を見込む事業です。基礎化学品領域における東南アジアでの高いシェアを投資によってさらに高め、確実に収益を取り込みます。また、高機能フッ素製品の拡販も成長の核とします。

(注) 数値データはすべて国際会計基準(IFRS)ベース

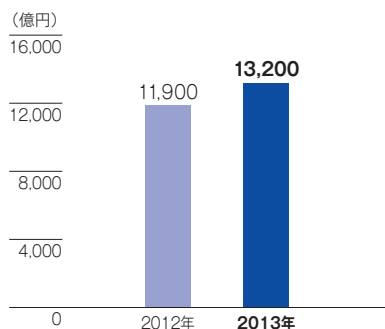
財務・非財務ハイライト

報告対象組織：旭硝子株式会社および連結子会社
 報告対象期間：各12月31日に終了した連結事業年度
 数値データ：国際会計基準(IFRS)ベース(非財務データを除く)

財務データ

売上高^(注1)

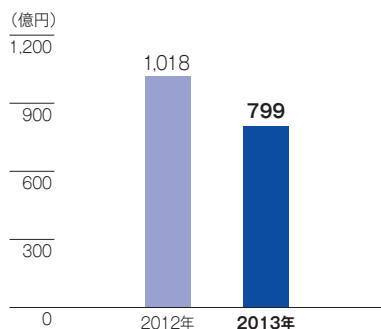
13,200 億円



(注1) 地域別売上高構成は消去前数値で算出

営業利益

799 億円

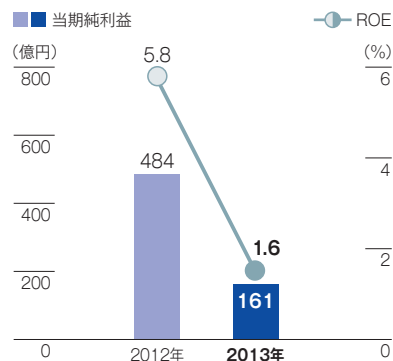


親会社の所有者に
 帰属する当期純利益

161 億円

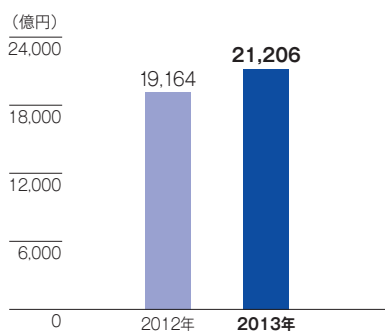
自己資本利益率
 (ROE)

1.6%



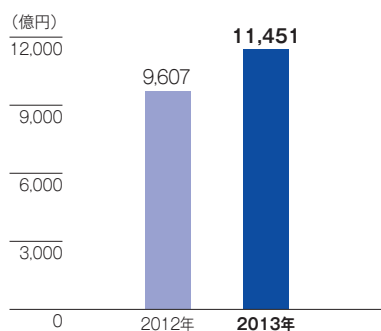
資産

21,206 億円



資本

11,451 億円

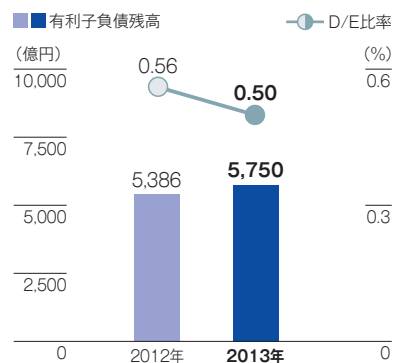


有利子負債残高

5,750 億円

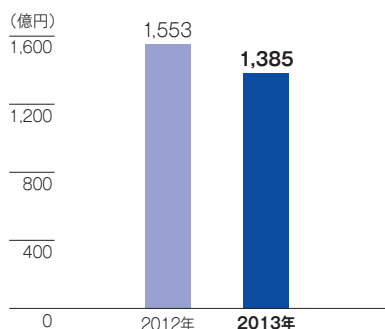
D/E比率

0.5%



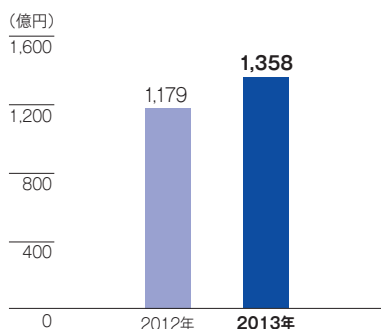
設備投資額

1,385 億円



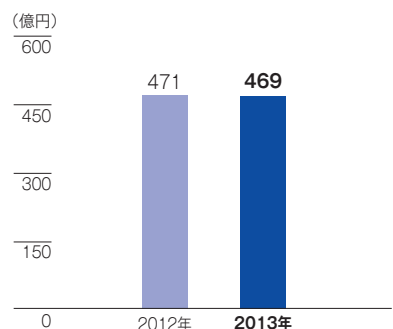
減価償却費

1,358 億円



研究開発費

469 億円



(注) セグメント別財務データはp.11を、より詳細な財務データは「有価証券報告書」または「フィナンシャル・レビュー」(英語版のみ)を参照ください。

非財務データ

	2011年	2012年	2013年	前年度比
人材・労働安全関連データ (注2)				
従業員数(名)	50,957	49,961	51,448	1,487
人材データベース「スキルマップ」登録者数(名)	5,500	7,300	8,300	1,000
死亡災害発生件数(件) (注3)	2	3	1	-2
環境関連データ (注4)				
総エネルギー投入量(PJ) (注5)	147	150	147	-3
温室効果ガス排出量(千t-CO ₂)	9,860	10,050	9,870	-180
廃棄物総発生量(千t)	811	650	664	14
廃棄物最終処分量(千t)	25	25	22	-3
総排水量(百万m ³) (注6)	48	47	48	1

(注) より詳細な非財務データは、別冊「CSR情報 資料編」および「CSRホームページ」を参照ください。

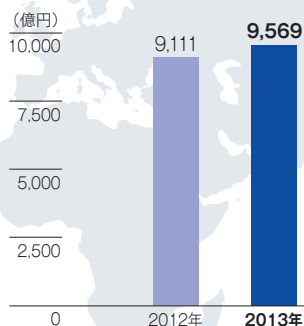
(注2) 関連情報については、ChapterⅢ「人へ」(p.29~)を参照ください。 (注3) AGCグループ従業員の数値。

(注4) 関連情報については、ChapterⅡ「地球へ」(p.23~)を参照ください。 (注5) PJ(ペタジュール)=10¹⁵J(ジュール) (注6) AGCグループ(日本)の数値。

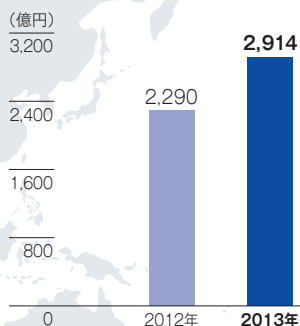
地域別データ

売上高

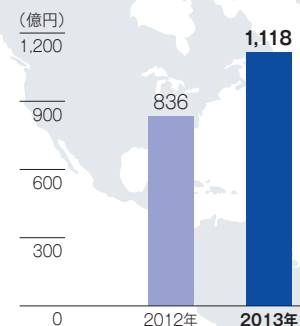
日本・アジア **9,569** 億円



欧州 **2,914** 億円



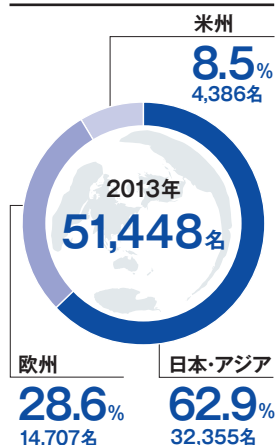
米州 **1,118** 億円



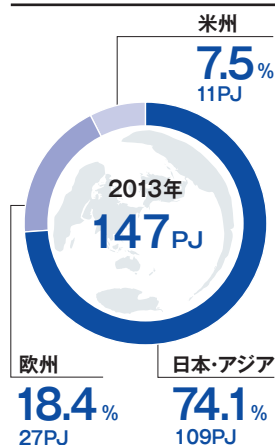
売上高比率 (注7)



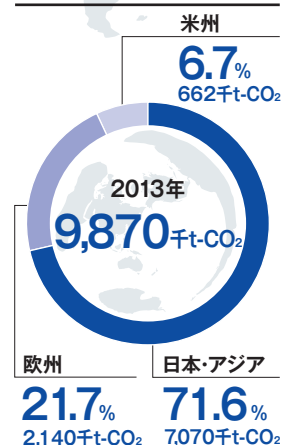
従業員比率



総エネルギー投入量比率



温室効果ガス排出量比率



(注7) 地域別売上高構成は消去前数値で算出。

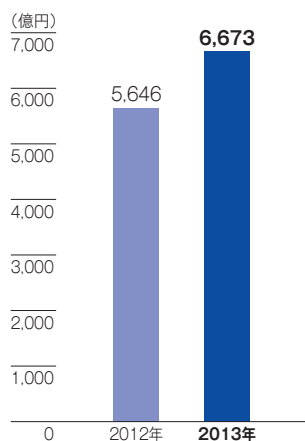
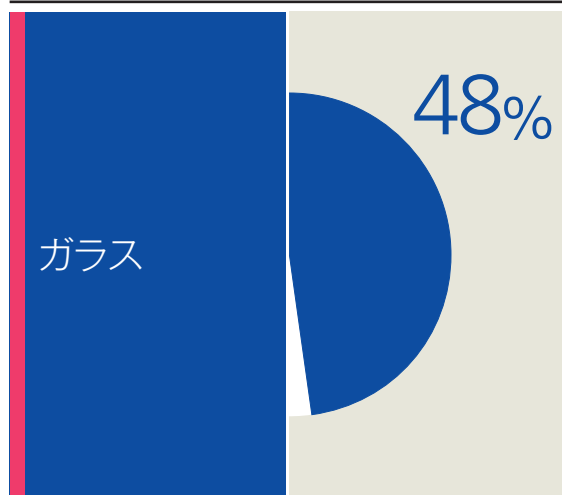
AGCグループの概要

事業

売上高比率(注1)

売上高推移(注1)

製品

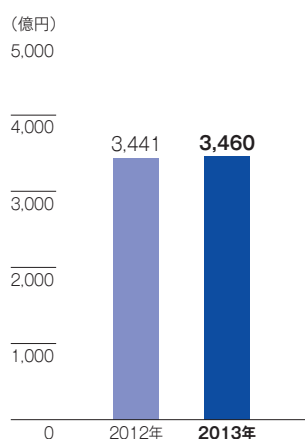
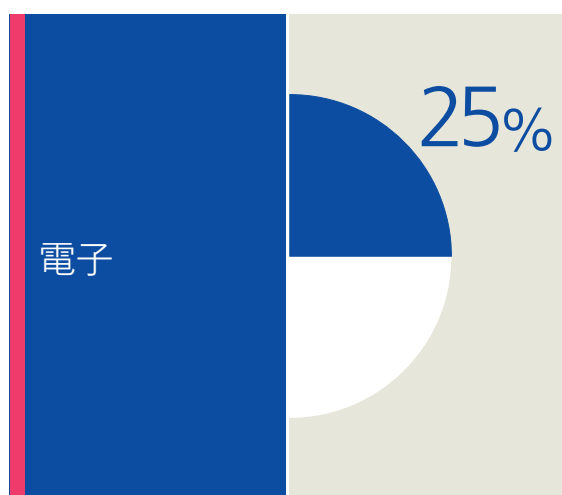


板ガラス

- フロート板ガラス
- Low-E(低放射)ガラス
- 遮熱・断熱複層ガラス
- 安全ガラス
- 装飾ガラス
- ソーラー用ガラス など

自動車用ガラス

- 自動車用強化ガラス
- 自動車用合わせガラス など

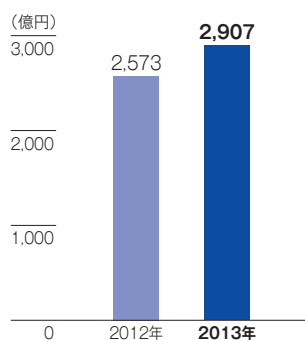
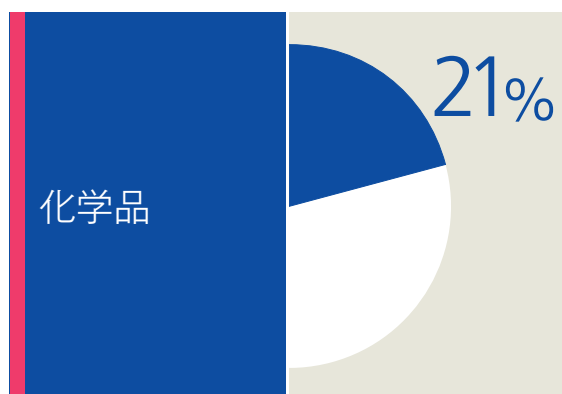


ディスプレイガラス

- TFT用ガラス基板
- PDP用ガラス基板
- ディスプレイ用特殊ガラス
- 表示デバイス用ガラス基板
- ディスプレイ用周辺部材 など

電子部材

- 視感度補正フィルター(ブルーフィルター)
- CMPスラリー
- 合成石英ガラス
- ガラスフリット/ペースト
- ガラスモールドレンズ
- カーボガラス® など

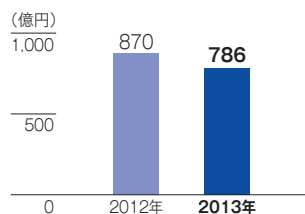


クロールアルカリ・ウレタン

- 塩化ビニール材料
- 苛性ソーダ
- ウレタン原料 など

フッ素化学・スペシャリティ

- フッ素樹脂・フィルム
- 撥水撥油剤
- 医農薬中間体・原体
- ヨウ素製品
- 電池材料 など



セラミックス

- 各種耐火材料
- ファインセラミックス
- スパッタリングターゲット など

物流、エンジニアリング など

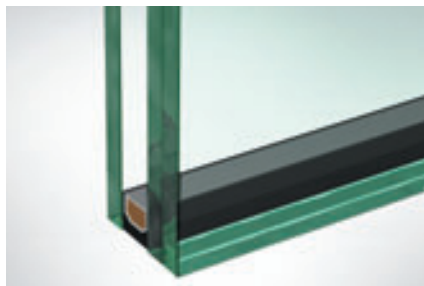
(注1) 数値データはすべて国際会計基準(IFRS)ベースです。

会社概要

2013年12月末現在

名称	旭硝子株式会社(グローバルブランド AGC)	資本金	90,873百万円
英文名称	ASAHI GLASS CO., LTD.	発行済株式総数	1,186,705,905株
本社所在地	〒100-8405 東京都千代田区丸の内1丁目5番1号	従業員数	51,448名(連結) 6,269名(単独)
創立	1907(明治40)年9月8日	グループ連結会社数	200社(うち海外164社)
設立	1950(昭和25)年6月1日		

ガラス



Low-E(低放射)合わせ複層ガラス



内装壁面用カラーガラス
「ヒトロカラー®」「ラコベル®」



自動車用ドアガラス
「UVベールPremium®」シリーズ

電子



化学強化用特殊ガラス「Dragontrail® X」



TFT液晶用ガラス基板



デジタルカメラ用視感度補正フィルター

化学品



フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」



高耐候性塗料用フッ素樹脂「ルミフロン®」



医薬薬中間体・原体「タフルプロスト」(注2)

セラミックス・その他



ガラス溶解窯用
大迫電鍍煉瓦



高断熱炉壁
「THERMOTECT
WALL™」



セラミックス系
スパッタリング
ターゲット



セメント
ロータリー
キルン

(注2)「タフルプロスト」は参天製薬株式会社と共同開発した緑内障・高眼圧症治療剤です。

グローバルネットワーク

AGC 旭硝子株式会社

日本

- AGCグラスプロダクツ株式会社
- AGC硝子建材株式会社
- AGC沖縄硝子建材株式会社
- AGCアメニテック株式会社
- 竜ヶ崎硝子株式会社
- AGCファブリテック株式会社
- AGCオートモーティブAMC株式会社
- AGCオートモーティブウィンドウシステムズ株式会社
- オートグラス株式会社
- AGCディスプレイガラス米沢株式会社
- AGCエレクトロニクス株式会社
- AGCテクノグラス株式会社
- AGCマイクロガラス株式会社
- AGCポリカーボネート株式会社
- 日本真空光学株式会社
- ▲ 伊勢化学工業株式会社
- ▲ 京葉モノマー株式会社
- ▲ AGCエスアイテック株式会社
- ▲ AGCエンジニアリング株式会社
- ▲ AGCセイミケミカル株式会社
- ▲ AGCコーテック株式会社
- ▲ AGCポリマー建材株式会社
- ▲ AGCグリーンテック株式会社
- ▲ AGC若狭化学株式会社
- ▲ AGCマテックス株式会社
- ▲ AGCフィルテック株式会社
- ▲ 北海道曹達株式会社
- ▲ 鹿島ケミカル
- ◆ AGCセラミックス株式会社
- ◆ AGCプライブリコ株式会社
- 株式会社AGC総研
- AGC保険マネジメント株式会社
- AGCファイナンス株式会社
- AGCロジスティクス株式会社
- AGCテクノロジーソリューションズ株式会社
- 東海工業株式会社

アジア

タイ

- AGCフラットガラス・タイランド社
- AGCオートモーティブ・タイランド社
- AGCテクノグラス・タイランド社
- AGCマイクロガラス・タイランド社
- ▲ AGCケミカルズ・タイランド社
- ▲ AGCマテックス・タイランド社
- AGCテクノロジーソリューションズ・タイ社

インドネシア

- アサヒマス板硝子社
- イワキガラス・インドネシア社
- チャハヤティアラムスティカ・サイエンテフィック・インドネシア社
- ▲ アサヒマス・ケミカル社

シンガポール

- AGCフラットガラス・アジアパシフィック社
- AGCエレクトロニクス・シンガポール社
- ▲ AGCケミカルズ・アジアパシフィック社
- ◆ AGCセラミックスシンガポール社
- AGCアジアパシフィック社
- AGCシンガポール・サービス社

北米

アメリカ

- AGCフラットガラス・ノースアメリカ社
- AGCソーダ社
- AGCオートモーティブ・アメリカ社
- AGCオートモーティブ・アメリカR&D社
- AGCエレクトロニクス・アメリカ社
- ▲ AGCケミカルズ・アメリカ社
- ▲ ウッドワード・アイオダイン
- AGCアメリカ社
- AGCキャピタル社

カナダ

- AGCフラットガラス・ノースアメリカ(カナダ)社
- AGCオートモーティブ・カナダ社

メキシコ

- AGCオートモーティブ・メキシコ社
- AGCオートモーティブ・ガラス・メキシコ社

フィリピン

- AGCフラットガラス・フィリピン社
- AGCオートモーティブ・フィリピン社
- AGCフィリピンエコゾーンマネジメント社

台湾

- AGCディスプレイガラス台湾社
- AGCエレクトロニクス台湾社

中国

- 旭硝子特種ガラス(大連)有限公司
- 旭硝子特種ガラス(蘇州)有限公司
- 旭硝子精細ガラス(深圳)有限公司
- AGCフラットガラス香港社
- 旭硝子汽車玻璃(中国)有限公司
- 旭硝子汽車玻璃(佛山)有限公司
- 北京快易安汽車玻璃銷售服務有限公司
- 旭硝子玻璃基板(香港)有限公司
- 旭硝子玻璃基板(広東)有限公司
- 旭硝子顯示玻璃(昆山)有限公司
- 旭硝子顯示玻璃(深圳)有限公司
- ▲ 旭硝子化工貿易(上海)有限公司
- ▲ 清美通達錳能科技(無錫)有限公司
- ◆ ツーポー旭硝子剛玉材料有限公司
- ◆ 宜興旭硝子工業陶瓷有限公司
- ◆ 旭硝子派力固(大連)工業有限公司
- 旭硝子(中国)投資有限公司
- 旭硝子(上海)管理諮詢有限公司
- 旭硝子高新技術設備(昆山)有限公司

韓国

- 韓旭テクノグラス社
- 旭硝子ファインテクノ韓国社
- 旭PDガラス韓国社
- AGCディスプレイガラス・オチャン社

南米

ブラジル

- ▲ AGCガラス・ブラジル社

欧州

ベルギー

- AGCガラス・ヨーロッパ社
- AGCガラス・ヨーロッパ・セールス社
- AGCオートモーティブ・ヨーロッパ社
- AGCオートモーティブ・ベルギー社
- AGCヨーロッパ社

オランダ

- AGCフラットガラス・オランダ社

イギリス

- AGCガラスUK社
- ▲ AGCケミカルズ・ヨーロッパ社

チェコ

- AGCフラットガラス・チェコ社
- AGCオートモーティブ・チェコ社

ロシア

- AGCポーラスワークス社
- AGCフラットガラス・クリン社

フランス

- AGCフランス社

イタリア

- AGCフラットガラス・イタリア社
- AGCオートモーティブ・イタリア社

スペイン

- AGCフラットガラス・イベリカ社

ドイツ

- AGCガラス・ドイツ社
- Interpane Glas Industrie社

ハンガリー

- AGCガラス・ハンガリー社

ポーランド

- AGCグダンスク社

トルコ

- AGCオートモーティブ・アダバザリ社

- ガラス
- 電子
- ▲ 化学品
- ◆ セラミックス
- その他

(注) 2013年12月末現在。

In Brazil

2014FIFAワールドカップを支える 幅広い技術

AGC旭硝子は、ブラジルで開催される2014FIFAワールドカップの12会場全てに、競技者用ベンチ向けガラスルーフを提供しま



す。ルーフに使用するのは、世界最高レベルの強度を持つ化学強化用特殊ガラス「Dragontrail® X」(詳細はp.20参照)です。通常のガラスより約8倍の表面強度を持つこのガラスを2枚合わせて使用することで、優れた耐衝撃性をさらに強化しました。また、このガラスに独自の低反射コーティングを施すことで、光の反射率を通常の13分の1に抑制。観客席から監督や選手の様子をクリアに見渡すことができます。

さらに、サンパウロのサッカースタジアム「アリーナ・コリンチャンス」においては、ガラスのオフィシャルサプライヤーに選定されました。透明度が極めて高いガラス「Planibel Clearvision」を供給し、スタジアムの美しさを引き立たせています。

そのほか、レシフェのサッカースタジアム「アリーナ・ペルナンブコ」の外装には、高機能フッ素樹脂「アフレックス®」が採用されています。軽量で柔軟なフッ素樹脂フィルムにより、曲線的で美しいスタジアムを実現しました(写真はp.18参照)。

AGC旭硝子は、ガラスや化学の独自技術を活かして、2014FIFAワールドカップを盛り上げていきます。



化学強化用特殊ガラス「Dragontrail® X」を使用した
競技者用ベンチ向けガラスルーフ



高透過ガラス「Planibel Clearvision」を使用した
「アリーナ・コリンチャンス」スタジアムの東ファサード
©Coutinho, Diegues, Cordeiro/DDG

Chapter I

市場へ

**従来の枠組みを超えて融合する市場に、
AGCグループの総合力を活かす。**

近年、スマートシティなどに代表されるように、複数の業界にまたがる新しい市場が生まれています。一方、AGCグループではコア技術の「ガラス」「化学」「セラミックス」を融合させた新製品が生まれています。

このように、グループ内外がダイナミックに変化するなかで成長を実現していくためには、従来の枠組みを超えて広がる事業機会を確実に捉える必要があります。こうした

背景から、業界・製品ごとに設定していた従来の事業ドメインから脱却し、新たな事業ドメインを2013年に再定義しました。

この新しい事業ドメインのもと、AGCグループが独自に持つ「素材・技術」「市場」「事業地域」というそれぞれの多様性を「総合力」という強みに変え、事業部門の枠を超えた価値を提供していきます。



AGCグループの事業ドメイン

事業ドメイン1 「快適な生活・空間領域」

人々の安全・安心な生活を支え、快適な空間づくりに貢献する製品・技術を生み出します。建築・住宅、自動車、インフラ、照明、医薬品などの産業が主な対象です。

▶ 詳細情報 …… p.17

事業ドメイン2 「クリアな映像・通信領域」

急速に発展する情報通信・映像関連機器の高性能を支える部材・技術を生み出します。ディスプレイ、情報・通信機器、光学機器などの産業が主な対象です。

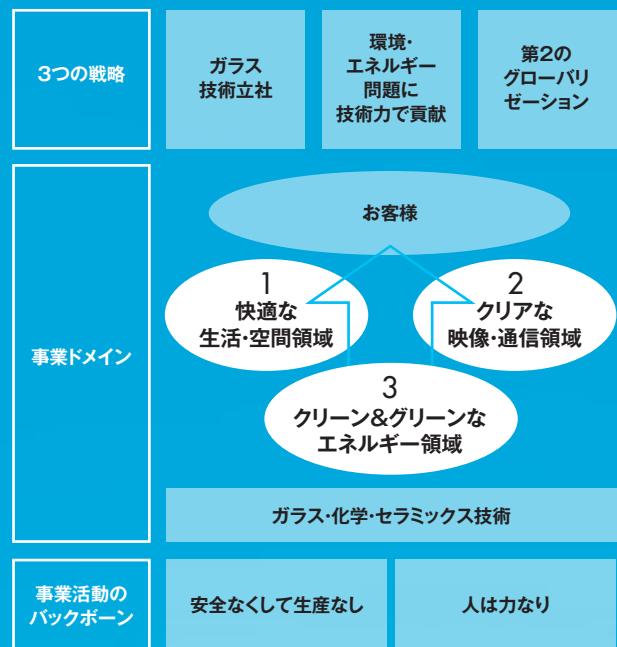
▶ 詳細情報 …… p.19

事業ドメイン3 「クリーン&グリーンなエネルギー領域」

クリーンエネルギーの供給や、省エネルギーに貢献する部材・技術を生み出します。省エネ関連製品・部材、ソーラー発電やエコカーなどの創エネ関連産業が主な対象です。

▶ 詳細情報 …… p.21

これらの事業ドメインのもと、「ガラス技術立社」「環境・エネルギー問題に技術力で貢献」「第2のグローバルゼーション」という3つの戦略をより強力に進めることで、成長を実現していきます。



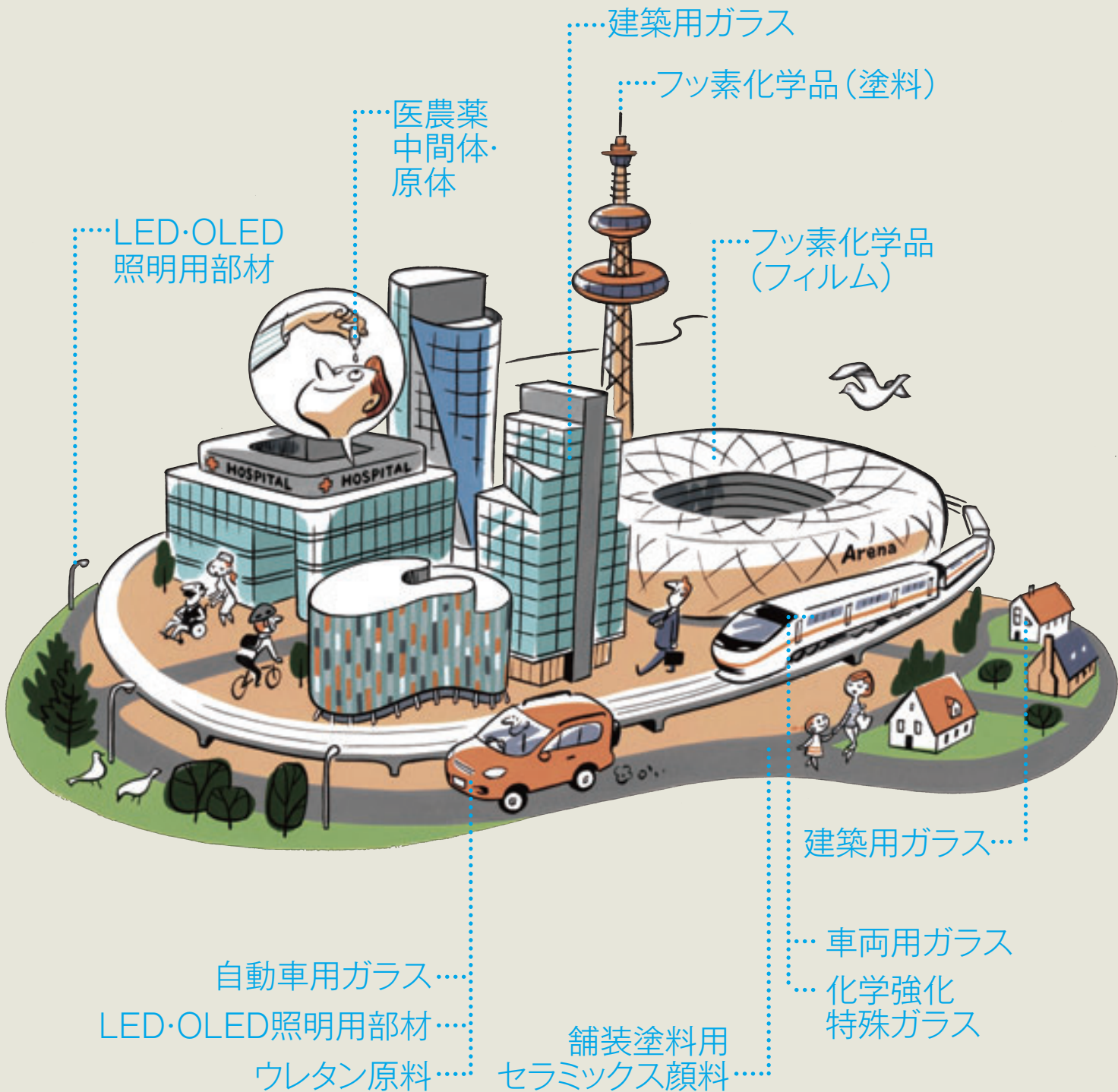
地域別売上高





快適な生活・空間領域

人々の安全・安心な生活を支え、
さらに快適な空間づくりに貢献する製品・技術を供給します。



経済成長が目覚ましい新興市場では、公共インフラの整備が進むとともに、住宅や自動車の需要増加と高機能化が進んでいます。また先進国においても、より快適な生活・空間に対するニーズは、今後も高まると見込まれます。

これらの市場で確実に需要を取り込めるよう、AGCグループは、ガラス・化学・セラミックス技術を融合させて、安心・安全な生活を支え、より快適な空間をつくり出す製品開発を推進しています。

主な製品

KEY PRODUCT

「UVベールPremium[®]」シリーズ

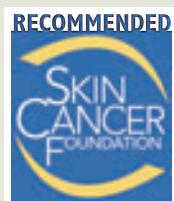
紫外線や赤外線を強力にカットするドライバーの強い味方！

近年、「日焼け、しみ・しわ、さらには皮膚がんの原因となる紫外線や、暑さの原因となる赤外線をカットしたい」というドライバーのニーズが高まっています。

AGCグループの自動車ドア用強化ガラス「UVベールPremium Cool on[®]」は、世界初^(注1)となる紫外線カット率99%^(注2)に加え、赤外線カット性能も向上。運転中に降り注ぐ強い紫外線からドライバーを守るだけでなく、車内の暑さを和らげるためのエアコン温度を高めを設定することが可能となり、環境負荷の低減にも貢献しています。2013年には、紫外線カット機能が米国の皮膚がん財団から高く評価され、同財団の認証を取得しました。

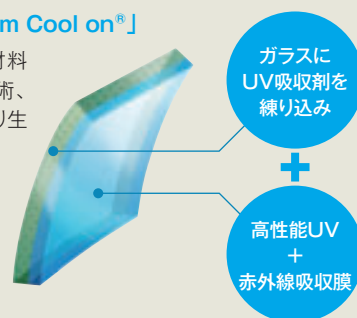
^(注1) 2012年12月現在。AGC旭硝子調べ。

^(注2) ISO9050基準。AGC旭硝子調べ。



「UVベールPremium Cool on[®]」

この製品は、ガラス材料技術、コーティング技術、化学技術の融合により生まれました。



OTHER PRODUCTS

高機能フッ素樹脂フィルム 「アフレックス[®]」



© Inês Campelo/Itaipava Arena Pernambuco

緑内障治療薬用 医薬原体 「タフルプロスト」



^(注) 「快適な生活・空間領域」における製品・技術の詳細は「AGCホームページ」をご参照ください。

WEB www.agc.com/portal/index.html



クリアな映像・通信領域

急速に発展する情報通信・イメージング関連機器の
高性能を支える部材・技術を供給します。

…ディスプレイ用
ガラス基板
…光学機器用ガラス部材



…ディスプレイ用
ガラス基板
…化学強化用
特殊ガラス

…ディスプレイ用
ガラス基板
…光学機器用ガラス部材
…ストレージ機器用
ガラス部材
…半導体関連部材

スマートフォンに代表される情報端末の世界的な普及により、通信・映像市場のさらなる拡大が見込まれます。同時に、ユーザーのニーズも、薄型・軽量化や画像の高精細化など、より高度で多様になっています。さらに、従来以上の解像度が楽しめる4Kテレビの登場により、通信インフラの高速・大容量化がさらに求められています。

AGCグループは、刻々と進化するこれらの市場にタイムリーに応える高機能製品を生み出しています。また、高機能製品の新たな用途展開にも積極的に挑んでいます。

主な製品

KEY PRODUCT

化学強化用^(注1)特殊ガラス「Dragontrail® X」

表面強度をさらに高め、「割れないスマホ」を実現！

スマートフォンなどのタッチパネルには、「割れない」「傷がつかない」「薄くて軽い」「つややかで美しい」といった多様な機能が求められます。それに応えるのが、強度、耐傷性、質感のすべてにおいて優れた性質を持つ化学強化用特殊ガラス「Dragontrail®」です。現在、全世界の37ブランド、316機種に採用されています^(注2)。



2014年には、この従来品に比べて表面強度を30%以上高めた「Dragontrail® X」を上市。化学強化ガラスの中で

世界最高強度^(注3)を誇り、より割れにくいモバイル機器の実現に貢献しています。

また、より広範な用途に向けて、化学強化特殊ガラスの用途提案を積極的に進めています。



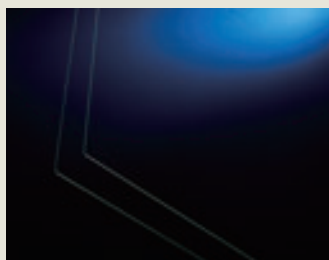
^(注1) 化学強化とは、ガラス素板を薬品に浸すことで、表層を化学的に強化する技術。

^(注2) 2014年3月現在。

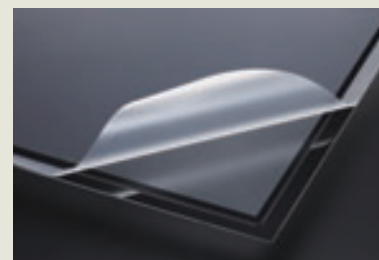
^(注3) 圧縮応力値は、従来品「Dragontrail®」が最大800Mpaであるのに対し、新製品「Dragontrail® X」は1GMpaまで可能。

OTHER PRODUCTS

超低熱収縮ガラス基板「AN Wizus™」



光学接合用樹脂付カバーガラス



^(注) 「クリアな映像・通信領域」における製品・技術の詳細は「AGCホームページ」をご参照ください。

WEB www.agc.com/portal/index.html

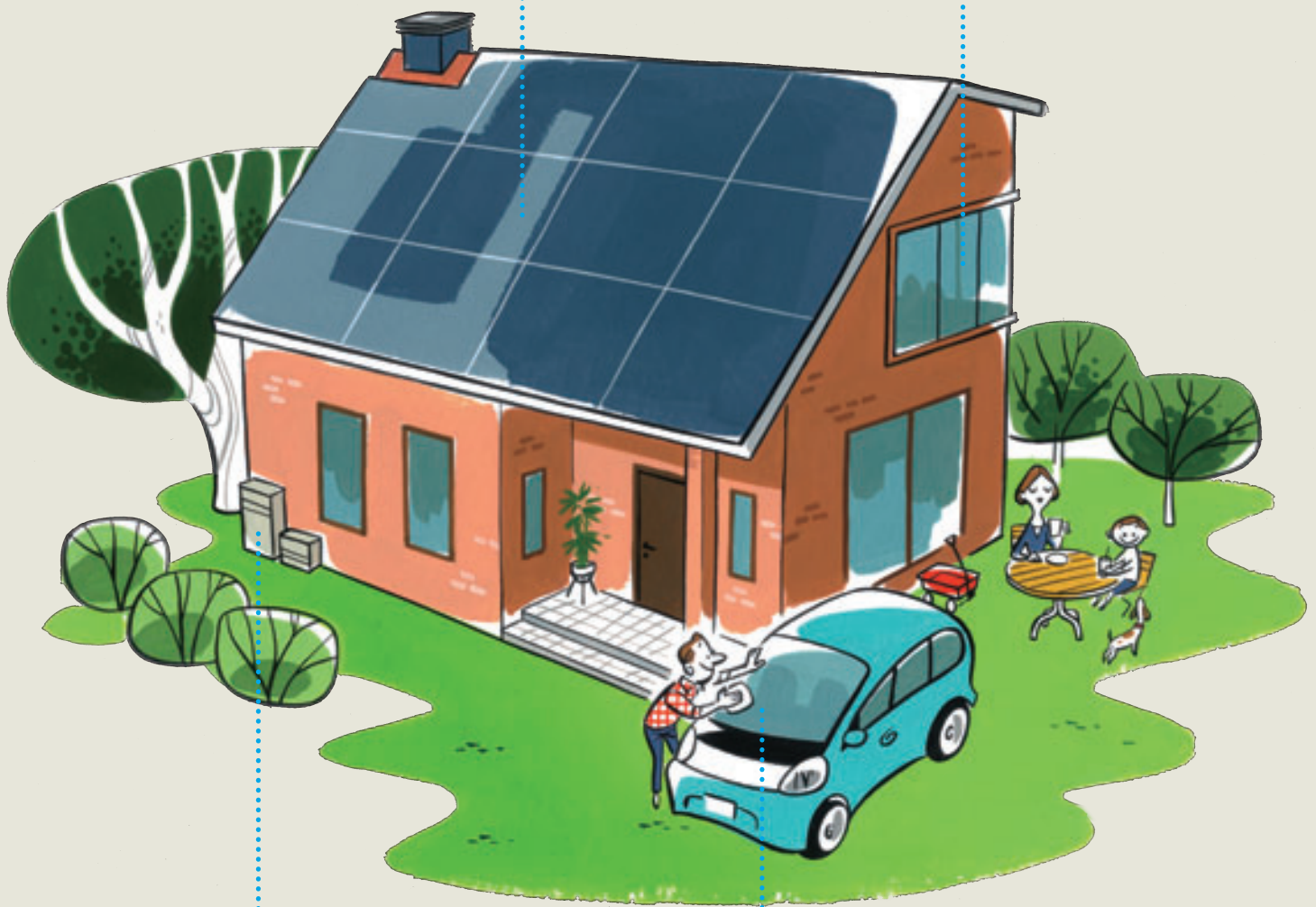


クリーン&グリーンなエネルギー領域

クリーンエネルギーの供給や、
省エネルギーに貢献する部材・技術を供給します。

ソーラー発電用ガラス……
化学強化特殊ガラス……

……エコガラス



……燃料電池関連部材

……エコカー関連部材

- 高出力LED用
ガラスセラミックス基板
- リチウムイオン電池材料
- 燃料電池関連部材

気候変動をはじめとした環境問題に加え、エネルギー資源確保の観点から、クリーンエネルギーの利用や省エネルギーに対する関心が世界規模で高まっています。AGCグループは、環境問題という喫緊の課題解決に事業機会を見出し、製品を通じて社会が求める価値を創出しています。

具体的には、家庭やオフィスの電力使用量削減に貢献する“省エネ製品”と、ソーラー発電やエコカーの普及に寄与する“創エネ製品”という2つの側面から、製品開発に注力しています。

主な製品

KEY PRODUCT

現場施工型後付け省エネガラス「アタッチ®」

低コストかつ簡単に取り付けられる省エネガラスで一年中快適なオフィスを実現！

社会全体で省エネ意識が高まるなか、オフィスビルや店舗における室内温度の調整は、空調に大きく頼っています。オフィスビルや店舗などはガラス自体の交換が難しいため、既存のガラスに遮熱フィルムを貼る方法もあります。ところがこの遮熱フィルムは、夏場の暑さだけではなく、冬場にも日差しをカットしてしまいます。また冬場には、室内の暖かい空気を逃がさないための断熱性が高められません。

AGCグループの現場施工型後付け省エネガラス「アタッチ®」は、年間を通じて高い省エネ効果を発揮します。その結

果、施工後は空調エネルギー使用量を約33%、空調エネルギーコストを年間約57万円削減することができます。^(注1)

取り付け方は簡単で、既存の窓ガラスの内側から省エネガラスを貼り付けるだけなので、既存ガラスを廃棄する必要がありません。また、足場を組む必要がないので、1窓あたり約30分から1時間という短時間で簡単に取り付けられます。これは、施工費用の圧縮にもつながります。さらに、遮熱フィルムのように定期的な貼り替えが不要のため、廃棄物の削減にも寄与します。

こうした機能が評価され、平成25年度省エネ大賞の「省エネルギーセンター会長賞」やECHO CITY製品大賞2013の「特別賞」を受賞しました。

^(注1) 建築条件が下記の場合(算出地域:東京)。

建物幅:15m / 奥行き:15m / 階数:6階建て / 基準階床面積:225m² / 主方位:南 / 基準階高:3.6m / 建物全体ガラス面積:432m²



OTHER PRODUCTS

超軽量 太陽電池モジュール 「Light Joule」



化学強化特殊ガラス 「Leoflex®」



^(注) 「クリーン&グリーンなエネルギー領域」における製品・技術の詳細は「AGCホームページ」をご参照ください。

WEB www.agc.com/portal/index.html

Chapter II

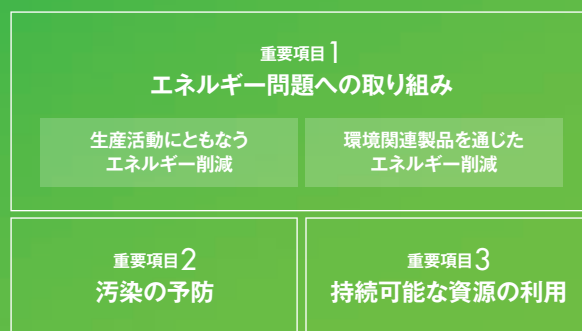
地球へ

“エネルギー多消費型産業として果たすべき責任”と
“省エネ・創エネニーズへの対応”という事業機会を見据えて。

AGCグループは、環境を経営の最重要課題の一つと位置づけ、「2020年のありたい姿」において「製品のみならず、生産工程・事業活動全般にわたって環境に配慮する」ことを宣言しています。具体的には、「エネルギー問題への取り組み」「汚染の予防」「持続可能な資源の利用」を重要項目に掲げ、各種施策を推進しています。

「エネルギー問題への取り組み」においては、生産活動にともなうエネルギー削減に取り組んでいます。同時に、省エネ・創エネに寄与する「環境関連製品」を通じて、社会全体のエネルギー消費削減に貢献するとともに、世界的に高まる環境への対応を事業機会につなげています。

環境マネジメントにおける重要項目^(注1)



(注1) 重点項目の選定プロセスや各課題の進捗などの詳細情報は、「CSRホームページ」をご参照ください。

WEB www.agc.com/csr/env/index.html



生産活動にともなうエネルギー削減

生産設備とユーティリティの両面から

AGCグループでは、生産活動にともなうエネルギー消費を削減するため、生産工程の改善によるエネルギー効率の向上や、天然ガスへの燃料転換などを進めています。とくにエネルギー消費の多い原料溶解プロセスについては、新技術の開発に注力し、プラズマや酸素燃焼炎などを活用した「気中溶解技術」の実用化などを進めています。

さらに、生産工程で使用する電気や蒸気などユーティリティ関連のエネルギー使用量の削減にも、グローバルに取り組んでいます。

→ 活動ハイライト …… p.25

環境関連製品を通じたエネルギー削減

省エネ・創エネニーズの高まりに事業機会を見出す

AGCグループは、持続可能な社会に貢献している企業として、社会全体の環境負荷削減につながる「環境関連製品」の開発・普及を進めています。この取り組みを事業機会として捉え、さらに加速させるため、環境関連製品の売上高比率を2015年に19%、2020年に30%まで高めるという目標を掲げており、2013年には15%となりました。

具体的には、建築用省エネガラスをはじめ、ソーラー発電関連部材、エコカー関連部材などを幅広くラインアップしています。また、それらの効果を「見える化」するため、製品ごとのライフサイクルCO₂(注2)の算定を進めるなど、環境関連製品の普及拡大につながる情報開示にも努めています。

(注2) 原料調達から製造、販売、物流、使用、廃棄・リサイクルまで、製品のライフサイクル全体を通じたCO₂排出量。

環境関連製品の売上高比率



→ 活動ハイライト …… p.27

地域別温室効果ガス排出量



環境関連製品を通じたCO₂排出量削減スローガン

AGCグループは、2020年に年間CO₂排出量の**6倍**を、省エネ・創エネ製品で削減することを目指します。

グローバルに広げる、 省エネへの創意工夫。

ユーティリティ関連のエネルギー使用量30%削減を目指して。

AGCグループでは、2009年から、電気や蒸気などのユーティリティの使用にともなうエネルギーの削減に取り組んでいます。

国内の各生産拠点において省エネ診断を実施し、設備の更新・改善や省エネ施策を進めました。また、拠点間での情報共有や施策の横展開を進めた結果、2012年度には前年度比8.5%削減という目標を達成しました。

2013年度には、「2015年までの3年間でユーティリティ関連エネルギー使用量を30%削減(注1)」という新たな目標を設定するとともに、活動エリアと対象範囲を拡大しました。既存設備の省エネに加え、新規設備の導入時から省エネ施策を取り入れた結果、前年度比15.6%の削減となりました。

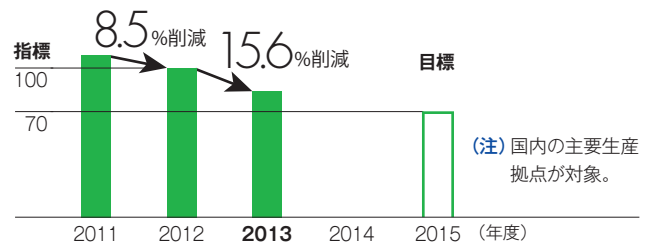
2014年度は、アジアの生産拠点においても日本と同様

の数値目標を設定し、定量的な評価を開始しています。欧米でも日本やアジアの施策を積極的に共有し、横展開を図っています。

今後も、これまでに培った省エネ技術をグローバルに拡げること、グループ全体での環境負荷低減に努めます。

(注1) 2012年度を基準として。

ユーティリティ関連のエネルギー使用量推移





In Asia
**アジア社会の期待と信頼に応える
 最先端の省エネ技術**

AGCグループは、アジア地域におけるインフラ需要の高まりに対応するため、現地のガラス事業や化学品事業の生産能力を高めています。その際に、環境先進企業としての社会的責任を果たすべく、現地における環境負荷低減に努めています。

例えば中国では、2015年の量産開始に向けて現在建設中の工場において、これまでの省エネ診断で進めた空調や照明に関する対策をはじめとする、AGCグループが持つ省エネ技術を、新設する生産ラインに徹底的に盛り込んでおり、新規稼働時から優れた省エネ性能を実現します。

In Brazil
**ブラジルで稼働し始めた
 最新鋭の環境配慮型工場**

2013年10月、ブラジル・サンパウロ州で、AGCガラス・ブラジル社が生産を本格開始しました。この工場の建設にあたっては、省エネをはじめ、排ガス処理や省水資源などの先進環境技術を導入。南米で最も環境負荷の低いガラス工場となります。

さらに、工場周辺の生態系にも配慮し、2011年から植生回復と野生生物保護のプロジェクトを地方自治体と共同で実施しました。「動物相の資源回復」「野生生物の捕獲と安全な場所への移動」「最小限の森林伐採、土壌の透水性維持と水質維持」に重点を置きました。工場建設のために取り除いた約33,000本の木々は、安全な場所への植林を進めています。



AGCグループの 省エネ・創エネ製品強化宣言。

2020年に使用する6倍の“省エネ貢献”の実現へ。

ガラス産業は、製造業全体(日本)におけるエネルギー消費の約1%を占める“エネルギー多消費型産業”です。こうした自らの環境負荷を認識し、それ以上の環境貢献を果たすため、AGCグループは、省エネ・創エネに貢献する環境関連製品の開発・供給に努めています。この取り組みを加速させるため、2014年度には、「2020年に、AGCグループにおける年間CO₂排出量の6倍を、省エネ・創エネ製品で削減することを目指します」とのスローガンを設定しました。

現在の見込みでは、2020年度に達成すべきCO₂削減量は年間約8,000万トンとなり、これは、一般的な家庭が年間に使用するエネルギー量(注1)の約1,600万世帯分に当たります。

この目標達成に向けて、省エネ・創エネなどの環境関連製品の開発や、販売パートナーなどと連携した提案活動をさらに強化していきます。

(注1) 一世帯当たりの家庭からの年間CO₂排出量は約5t(2011年度)。

出典: 温室効果ガスインベントリオフィス

http://www.jccca.org/chart/chart04_06.html

CO₂排出量削減の「2020年のありたい姿」

2020年度の

CO₂排出量(注2)

約1,300万トン

省エネ・創エネ関連製品による
CO₂削減量(注3)

約6倍削減

約8,000万トン

(注2) 2020年におけるAGCグループの年間CO₂排出量(想定)。

(注3) 2020年に生産した省エネ・創エネ関連製品が耐用年数まで使用された場合のCO₂削減量。

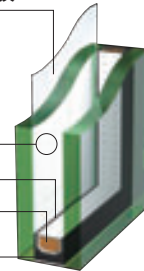


省エネかつ快適な空間づくりを可能にする 建築用省エネガラス「エコガラス」

「エコガラス(低放射複層ガラス)」は、ガラスにコートした金属膜の力で、夏の暑さを跳ね返します。また、2枚のガラスの間の空気層で冬の暖房効率を高め、結露も防ぎます。こうした断熱・遮熱の効果により、冷暖房効率が飛躍的に高まり、年間の冷暖房費を3分の1カットすることができます(1枚ガラスとの比較)。また、製品の生産から使用までのライフサイクル全体におけるCO₂排出量を比較すると、従来品(1枚ガラスなど)に比べて「エコガラス」は約8~9倍の削減効果があります。

光や熱を選択通過・反射する
特殊金属膜

乾燥
中空層
スペーサー
吸湿材
封着材



CO₂排出量

約8~9倍削減(従来品と比較して)



苛性ソーダの生産にともなうエネルギーの削減に寄与する フッ素系イオン交換膜「フレミオン®」

化学繊維、紙・パルプなど、さまざまな産業に欠かせない基礎工業薬品である苛性ソーダ。その製法の一つであるイオン交換膜法の中核部材が、フッ素系イオン交換膜「フレミオン®」です。従来の水銀法と比べ、有害物質を使わないだけでなく、エネルギー使用量を約40%削減することができます。現在は、従来の「フレミオン®」よりも消費電力がさらに少ない新商品「フレミオンF-8080®」を開発し、販売しています。AGCグループは、苛性ソーダの生産拠点において、世界に先駆けてイオン交換膜法への全面転換を達成しており、今後制度化が期待される二国間オフセット・クレジット制度(注4)なども活用して、新興国への普及も促進していきます。



(注4)日本が新興国の温室効果ガス削減対策を通じて実現した効果への貢献を二国間で定量的に評価し、日本の削減目標の達成に活用する仕組み。

エネルギー
約**40%削減**

地球温暖化への影響を抑える 低環境負荷冷媒「1234yf」[AMOLEA™]

空調機器や自動車などの冷媒にはハイドロフルオロカーボン(HFC)が使用されていますが、地球温暖化係数(GWP)が高いことから、日本や欧米をはじめ世界各地で規制化が進んでいます。AGCグループは、GWPが従来品(注5)の1,300分の1以下という極めて低い環境負荷をもつ、次世代の自動車用冷媒「1234yf」の生産技術を他社に先駆けて確立しました。2014年1月には米国のハネウェル社に供給することを発表しました。さらに、2014年3月には、従来品(注6)と同等の冷媒性能を持ちながら、地球温暖化係数を約6分の1に抑えた空調機器向け新冷媒「AMOLEA™」の開発に成功しました。2016年に商業生産を開始する見込みです。

(注5)自動車用冷媒134aとの比較。

(注6)HFC-410Aとの比較。

GWP (地球温暖化係数)
1234yf 約 **1/1,300** AMOLEA™ 約 **1/6**

Chapter III



世界中で活躍する多様な従業員、 その一人ひとりの成長力を、AGCグループの成長力に。

AGCグループの成長を支える原動力は、30以上の国と地域で働く約51,000名の従業員にほかなりません。経営方針 **Grow Beyond** においても、事業活動のバックボーン(p.16参照)として「人は力なり」と「安全なくして生産なし」を掲げています。

多様な従業員が実力を最大限に発揮できる環境づくりのため、AGCグループは、「リーダーシップ」「専門性・仕事力」「モチベーション・働きがい」を重視した人材マネジメントに取り組んでいます。同時に、従業員が安全に働ける環境の確保にも注力しています。

これらの施策を通じて、従業員一人ひとりの力をAGCグループの成長力へと結集させていきます。

人材・労働安全マネジメントにおける重要項目^(注1)

重要項目1
人材育成

重要項目2
労働安全衛生

重要項目3
働きやすい
職場づくり

(注1) 重点項目の選定プロセスや各課題の進捗などの詳細情報は、「CSRホームページ」をご参照ください。

WEB www.agc.com/csr/employee/index.html



人材育成

成長の推進力となる“人財”づくり

AGCグループは、従業員一人ひとりの成長が、グループの成長を支える原動力であると考えています。そのため、従業員が継続的に成長できるよう、業務や役割に必要な技術、知見、そしてノウハウを身につけられる研修制度を整備しています。「専門性の強化」と「仕事力の向上」に主眼を置き、制度や内容を見直し続けることで、より効果的な成長につなげていきます。

▶ 活動ハイライト …… p.31

労働安全衛生

「リスクの低減」と「意識の向上」を二本柱に

AGCグループでは、グローバルな安全管理活動として大きく2つの施策を推進しています。一つは「労働災害発生リスクの低減」です。ビジネスパートナーとも一体になって、労働災害防止に向けた予防・是正措置を講じるとともに、拠点間で情報や施策の横展開を図っています。もう一つは、「安全意識レベルの向上」です。従業員の安全衛生への“感度”を高められるよう、さまざまな教育・訓練を行っています。

▶ 活動ハイライト …… p.33

働きやすい職場づくり

従業員の多様性を尊重する環境づくり

AGCグループは、「企業行動憲章」において、人権を尊重し、各国・地域の文化や慣習に配慮した経営を行うこと、また人々の多様性や人格、個性を尊重し、差別のない働きやすい職場づくりを目指すこと、強制・児童労働を認めず、人権侵害に加担しないことを掲げています。こうした考えのもと、従業員の多様性を尊重し、働きやすい職場づくりを進めています。

TOPICS

女性活躍推進をテーマとした 東証「なでしこ銘柄」に2年連続で選定

2014年3月、AGC旭硝子は、東京証券取引所（東証）の「なでしこ銘柄^(注2)」に2年連続で選定されました。



これは、総合職の新卒採用のうち20%を女性とする目標を設定・達成している点や、あらゆるライフステージにおいても安心して働けるような制度・環境を整備している点などが評価されたものです。

(注2) 女性活躍推進と自己資本利益率（ROE）の側面から評価された東証一部上場企業26社が選定。

地域別従業員数



組織の枠を超えた交流が 生み出す“気づき”。

「スキルマップ」を用いた横断的ネットワーク活動が、新たな価値を育む。

独自の人材データベース 「スキルマップ」

AGCグループは、独自の人材データベース「スキルマップ」を2010年度から導入しています。これは、従業員を専門分野別に登録し、どの会社のどの部門に、どんなスキルをもった従業員がいるかを“見える化”することで、人材の有効活用やコミュニケーションの促進を図る仕組みです。

2013年末現在、スキルマップには技術系26分野、営業・事務職能系13分野で約8,300人が登録しています。例えば新しいプロジェクトに取り組む際、必要なスキルを持った人材が、どの国のどの組織にいるのかを迅速かつ的確に把

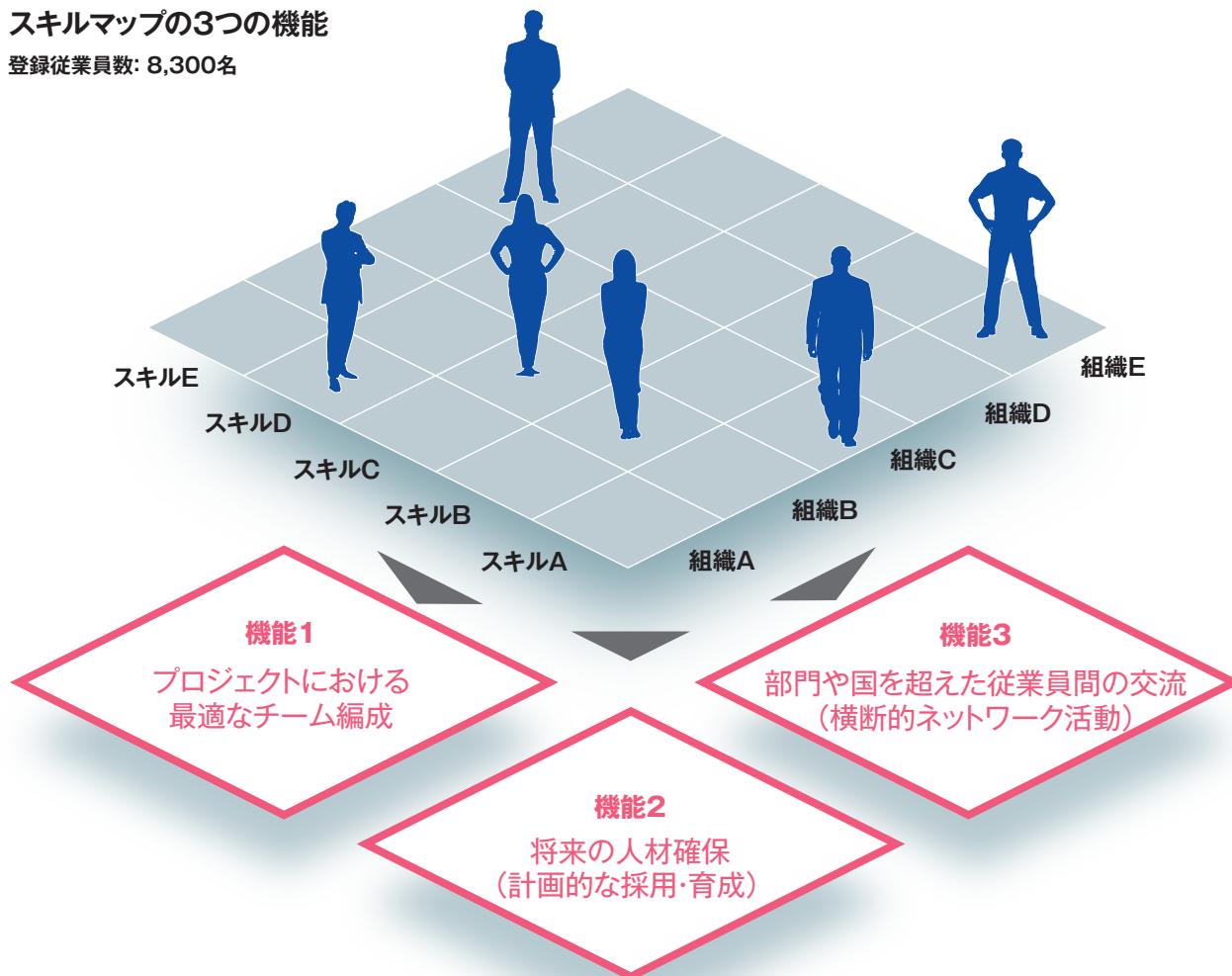
握できるため、最適なチーム編成が可能になります。

また、今、グループ全体でどの分野の人材が充実しているのか、将来的にどの分野の人材が不足するのか、などを一望できるため、成長戦略に沿った計画的な人材の採用・育成が可能になります。

さらに、共通のスキルを持ちながら、会社や部門が異なるために接点のなかった従業員同士が、互いの存在を知り、ネットワークを構築できます。この横断的ネットワーク活動により、組織や国境といった既存の枠を超えたコミュニケーションが可能になり、スキルの深化やこれまでにない視点からの課題解決を図ることができます。

スキルマップの3つの機能

登録従業員数: 8,300名



横断的ネットワーク活動から生まれる「コラボレーション」

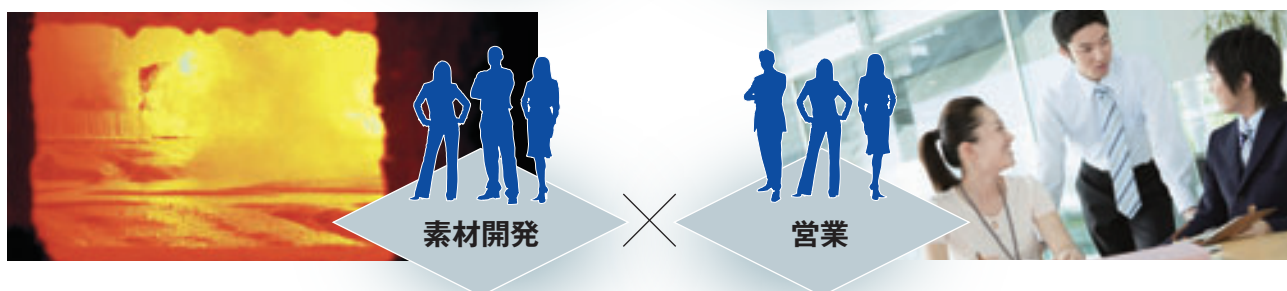
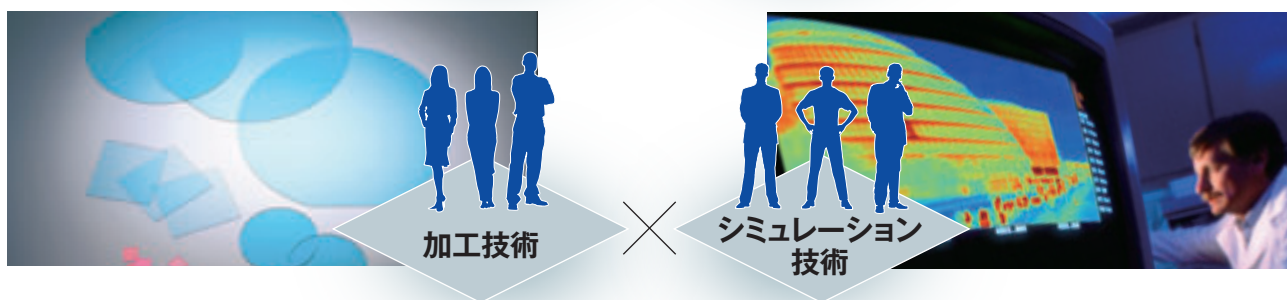
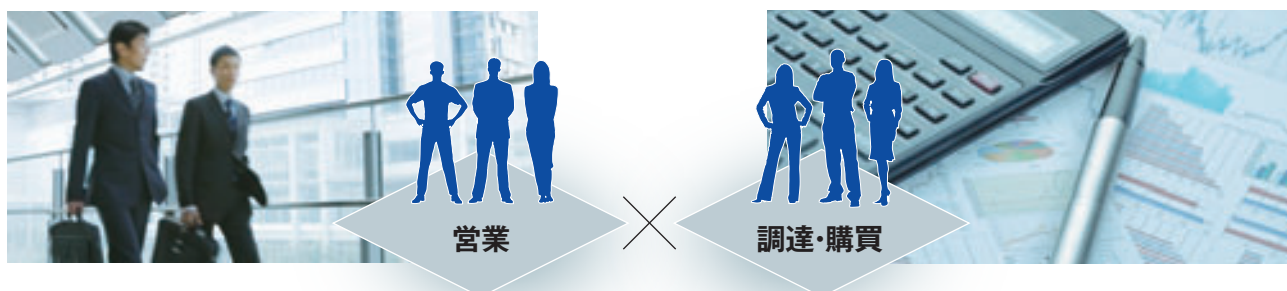
横断的ネットワーク活動は、共通のスキルを持ちながら、組織が異なるために日常業務で接点のなかった従業員同士が、情報交換から共同研究までさまざまなレベルで活動するものです。疑問をぶつけあったり、互いのスキルやノウハウを持ち寄ることで、課題解決や新技術創出のヒントも生まれています。

また、スキルマップの登録人数が増加するにともない、横断的ネットワーク活動も活性化しており、さらに、ネットワー

ク間の「コラボレーション」が生まれています。こうしたコラボレーションは、「技術系」同士だけではなく、「技術系」と「営業・事務職能系」の間でも交流が始まりました。例えば、営業部門と研究開発部門のコラボレーションにより、お客様の声を研究開発により一層活かすなど、これまでになかった視点、発想からの取り組みが始まっています。

こうした既存の枠を超えた人材交流を、AGCグループ独自の“文化”にしていくことで、新たな製品・サービスの創出につなげていきます。

異なるスキル同士のコラボレーション



安全な職場づくりを実現するために。

「重大事故災害撲滅プロジェクト」をグローバルに展開。

AGCグループは、「安全なくして生産なし」という安全衛生ポリシーのもと、死亡および後遺症の残る労働災害や、人身事故を引き起こし近隣への影響も大きい環境・保安防災に関わる事故をなくすため、「重大事故災害撲滅プロジェクト」を2012年4月に発足させました。

労働災害については、グループ全体で特にリスクが高い「フォークリフト」「パレット」「工事・製造設備対応作業」「挟まれ・巻き込まれ」の4テーマについて分科会を設置しました。部門横断的かつグローバルな規模で、従来とは異なるアプローチで予防措置を講じています。

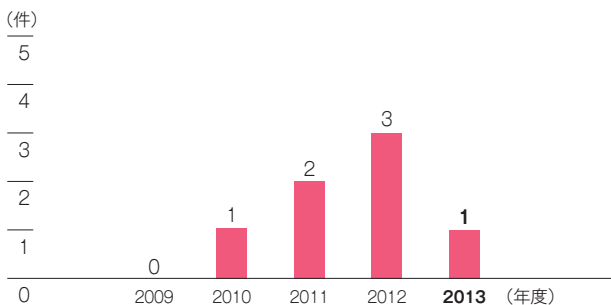
2013年度は、各拠点を調査して事故原因や潜在リスクを洗い出すとともに、それらの対策に向けた方針やガイドラインを策定しました。

今後は、これらの施策を世界中の生産拠点へと展開するとともに、各拠点での定着を図ります。

重大事故災害撲滅プロジェクト



死亡災害の発生件数推移 (AGCグループ)



(注) AGCグループ従業員の数値。AGCグループでは、ビジネスパートナーを含めた労働災害発生件数も集計しており、詳細情報を「CSRホームページ」で開示しています。



左上:アサヒマズ板硝子社(インドネシア)での作業前安全ミーティングの様子
左下:AGCオートモーティブ・アメリカ社(米国)ベルフォンテン工場の製造現場

活動事例

パレット分科会の取り組み

現状調査に基づき、安全のための基準を明確化

ガラスの製造現場で労働災害を引き起こす主要原因の一つに、自立できない「H型パレット」「裸大板ガラス」「木箱」など、重量物の倒壊があります。パレット分科会では、こうした事故を防ぐため、2013年度上半期に中国、タイ、インドネシア、フィリピンのガラス生産拠点の現状調査を実施。その結果を踏まえてAGCグループ基準を作成し、各拠点に発信しました。この基準は、大板ガラスを立てかけて保管する際の安全な傾斜角度や、パレットおよびガラスを固定するためのベルトの仕様など、安全性を守るためのルールを明確化したものです。

今後は基準の対象範囲を拡大するとともに、運搬時にガラスを把持する治具の改良など、新たな施策に取り組んでいきます。



大板ガラスの立てかけ保管

Voice

パレット分科会による労働災害防止の取り組み

2013年のパレット分科会の調査において、旭硝子特種ガラス(大連)有限公司(AFD)が以前から独自に取り組んでいた個々のパレットの安全荷重の基準作成・確認や大板ガラス保管のルール化などが、災害防止の効果が大きい活動として高い評価を受けました。

大板ガラスの保管に関する「AGCグループ基準」では、詳細かつ実践的な安全基準が定められており、その厳しい基準をクリアするため、AFDでもさらなる設備の改良や、倉庫における製品の管理基準の強化を実施しました。

AFDは、より安全な製造現場の実現に向け、今後もパレット分科会と連携をとりつつ改善に取り組んでいきます。



旭硝子特種ガラス(大連)有限公司
副総経理
ザオ・ビン



右上:AGCオートモーティブ・アメリカ社(米国)ベルフォンテン工場の製造現場
右下:安全パトロール研修(日本)の様子

社会貢献活動

「AGCグループ社会貢献基本方針」のもと、社会貢献活動を世界各地で実施しています。事業活動を展開している新興地域では、社会的課題解決に貢献する活動も進めています。

AGCグループ社会貢献基本方針の重点分野

人づくり
将来を見据えて価値を創造する私たちは、未来を担う子どもたちが夢に向かって成長できるよう支援します。

地域との共生
地域社会の一員である私たちは、その持続的な発展に貢献します。

自然環境への貢献
グローバルに事業を行う私たちは、地球規模の環境問題の解決に貢献します。

2013年度のトピックス



AGCケミカルズ・ヨーロッパ社

イギリスで 地元小学校での環境問題学習に参画

慈善団体と協働で、地元の小学校4校において環境や持続可能な社会をテーマとしたワークショップを提供。子どもたちに、環境保護の重要性を伝えています。



AGCガラス・ノースアメリカ社

アメリカで アースデイにあわせて環境活動功績を表彰

従業員の地球環境保全に対する認知と理解を促進するため、毎年4月22日のアースデイに環境活動コンテストなどを実施し、従業員個人や各拠点の優れた活動を表彰しています。



AGCフラットガラス・タイランド社

タイで 地域社会の持続可能な発展を支援する活動を推進

地域住民や専門家、NGOとともに森林地帯の子どもたちの教育改善などを進める活動「オープン・キッズ・ビジョン」を積極的に展開しています。

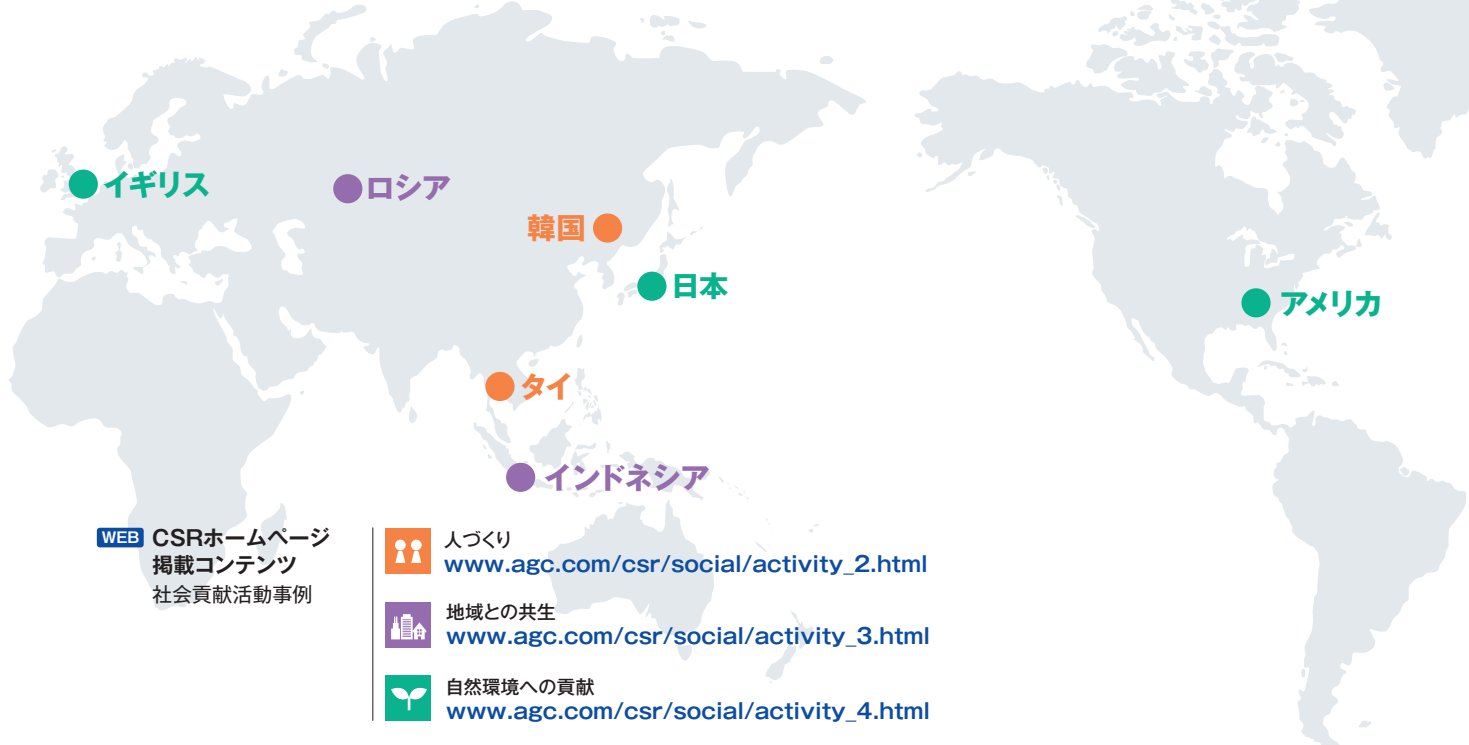


旭硝子ファインテクノ韓国社/ 韓旭テクノグラス社/旭PDグラス韓国社

韓国で 図書の寄贈、読書感想文コンクールを開催

地域の小学校3校に図書を贈呈し、子どもたちの成長を支援しています。また読書を習慣づけ、寄贈した図書を活用してもらうために、読書感想文コンテストを開催しています。





WEB CSRホームページ
掲載コンテンツ
社会貢献活動事例

- 人づくり
www.agc.com/csr/social/activity_2.html
- 地域との共生
www.agc.com/csr/social/activity_3.html
- 自然環境への貢献
www.agc.com/csr/social/activity_4.html



AGCグループ

グローバルに 各国におけるガラスの寄贈活動

AGCグループは、各国・地域において、ガラスの寄贈を通じて地域社会の発展を支援しています。

AGC旭硝子は、2005年より、防災ガラスの普及を通じて地域社会の安全対策を推進する「ガラスパワーキャンペーン」を実施しています。その一環として、これまで35の自治体に地震、突風、台風などの自然災害発生時に効果のある防災ガラスを寄贈しています。2013年5月には竜巻による甚大な被害を受けた茨城県つくば市へ、2014年2月には同じく竜巻の被害を受けた埼玉県越谷市へ寄贈しました。指定避難場所であるそれぞれの小学校校体育館では全ての窓ガラスが防災ガラスに交換され、自然災害時の安全性が高まりました。

また、インドネシアのアサヒマス板硝子社では、2013年にチカンベック工場周辺の寺院や警察署へ145m²のガラスを寄贈しました。これらの施設を利用する地域住民の方々により快適に過ごしていただくことで、地域社会の発展に貢献しています。

さらに、AGCガラス・ヨーロッパ社では、2013年2月に発生した隕石落下の被害を受けたロシア・チェリャビンスク州の病院・教育施設に2,000m²のガラスを寄贈しました。その他、被災地域へのガラス供給量を調整するなど、迅速な復旧を支援しました。



礼拝堂への寄贈（インドネシア）



旭硝子財団

日本で

2013年度の「ブループラネット賞」を2名の研究者に授与

旭硝子財団の地球環境国際賞「ブループラネット賞」は、2013年で22回を迎えました。同賞は、地球環境問題の解決に関して社会科学、自然科学／技術、応用の面で著しい貢献をされた個人または組織に対して毎年2件贈られます。

2013年度は、気象科学の研究・予測・解明に優れた指導力を発揮し、地球温暖化と気候変動について世界の認識を深めることに大きく貢献した松野太郎博士（日本）と、交通が環境に及ぼす影響について、科学・技術から行政までを含む包括的な実践研究により、都市の環境施策に大きな進歩・指針をもたらしたダニエル・スパーリング教授（米国）が受賞しました。

表彰式典は10月30日、秋篠宮・同妃両殿下をお迎えしてパレスホテル東京で開催しました。10月31日には国際連合大学において受賞者の記念講演会を開催しました。



ブループラネット賞表彰式典で選考経過を説明する
林良博選考委員長、受賞者およびご家族

リスクマネジメント

AGCグループは、「内部統制に関する基本方針」に基づき、「AGCグループ統合リスクマネジメント基本方針」を制定しています。同方針のもと、グループの経営目標の達成を阻害する要因（リスク）を定め、リスクの発現を抑制するための管理レベルと、リスクが発現した際の対応レベルの継続的な向上・改善を図っています。

AGCグループ全体で管理・対応しているリスクの例

- 地震等の自然災害
- 環境規制
- 製品需要に関連する市場の経済状況
- 事故災害
- 製造物責任
- 資材等の調達
- 海外への事業展開 など

事業継続マネジメント(BCM)の構築

「BCP策定ガイドライン」や「自然災害対策基本方針」を策定し、グループ全体で確実な対策を推進

AGCグループは、大規模な事故・災害などが発生した場合に備えて、2008年度から事業継続計画(BCP)の策定を開始しています。2011年3月には、各事業部門や拠点でBCPを策定する際のガイドラインとして「AGCグループBCP策定ガイドライン」を発行し、BCPを継続的に維持・改善するマネジメントプロセス(BCM)のもと、BCPの継続的な維持・改善を進めています。

2011年度からは、本社でシナリオ非開示のシミュレーション訓練を実施しており、グループCEO以下幹部社員が参加してBCPの周知徹底と実効性の向上を図っています。



2013年10月に実施した本社BCP訓練の様子

コンプライアンス

コンプライアンスの浸透

地域ごとに工夫を凝らしたコンプライアンス教育を推進

AGCグループは、全従業員が仕事をする上で順守しなければならない事項をまとめた「AGCグループ行動基準」を、12種類18言語で作成しています。また、コンプライアンスについて認識を新たにし、自らの業務や職場を見直すことを目的として、行動基準の順守に関する誓約書を定期的に提出する制度を導入。2013年度の誓約書の提出対象者は、グループ全従業員の約8割(約40,000名)でした。

さらに、行動基準をグローバルに浸透させるため、世界各地の従業員に対するコンプライアンス教育の強化を図っています。例えば、日本、欧州、北米では、コンプライアンスに関するeラーニングを継続的に実施しています。また、対面教育を行うほか、イラストやクイズを織り込んだ教材、コンプライアンスポケットカード、教育ビデオや啓発ポスターを制作するなど、コンプライアンス強化に向けて、国・地域ごとに積極的な教育活動を進めています。



イラストを用いた行動基準の解説

グローバルでヘルプラインを設置

運用面での配慮や周知活動にも注力

AGCグループは、コンプライアンスに関する相談窓口として、原則として会社ごとにヘルプラインを設けているほか、欧州・北米・中国・日本・韓国では各国・地域内共通ヘルプラインも設置しています。

運用にあたっては、相談者の匿名性確保に十分配慮するとともに、相談したことに対する報復行為を固く禁止しています。相談者が実名の場合は、対応に際してコミュニケーションを図り、対応状況や結果などをフィードバックしています。

また、ヘルプラインの利用促進を図るための周知活動にも努めています。



独占禁止法への対応

ガイドライン順守の徹底、教育、監査などを通じて公正な取引の実践を徹底

AGCグループは、グループ行動基準に加え、独占禁止法順守グローバルガイドラインを制定・運用しています。ガイドラインでは、競合他社との面会・会合について目的の適法性を十分に吟味した上、必要最小限にとどめることとし、出席にあたっては事前に上司の承諾を得るとともに、出席後に記録の作成および報告を行うこととしています。このほか、地域・組織ごとの独禁法順守教育、ガイドライン順守状況の監査などを実施しています。

サプライチェーンにおける社会的責任の推進

お取引先様のCSR活動に関するアンケート調査を開始

AGCグループは、持続可能な社会に貢献する企業として、人権、労働慣行、環境などさまざまな社会的課題の解決に向けた取り組みを、お取引先様も含めたサプライチェーンの全体で進めています。2009年に改定した「AGCグループ購買取引基本方針」では、企業の社会的責任(CSR)の重視を明記し、お取引先様にこの方針に対するご理解とご協力をお願いしています。

2013年は、海外を含む主要なお取引先様244社に対し、方針の周知・協力を依頼しました。また、お取引先様におけるCSR活動の実施状況を把握するためのアンケート調査も開始して、日本で実施しました。2014年には欧州や北米でも実施する予定です。

AGCグループ購買取引基本方針(抜粋)

サプライチェーンにおけるCSRの推進にあたってお取引先様へ協力を依頼する項目

1. 各国の法令を順守し、公正取引、安全・環境へ配慮した良質の製品・サービスの提供を重視していること。
2. 情報管理、知的財産管理が適正であること。
3. 強制労働、児童労働を認めず、人権侵害に加担しないこと。
4. 環境保全及び保安防災に取り組んでいること。
5. 安全で健康的な職場環境を確保していること。

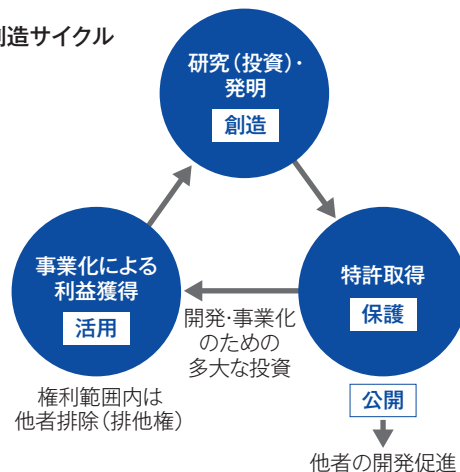
知的財産

AGCグループは、知的財産(知財)を事業戦略上の重要な資源と位置づけ、知財の創出、保護、増強を図ることによって、競争優位性を高めています。

日本・アジア、欧州、米国の開発拠点で創造した発明を、各国の早期権利化制度なども活用しながら、事業活動に応じて権利化することに努めています。

今後も、事業や研究開発の方向性を策定する段階から知財戦略を組み込み、「先手の知財活動」を進めていきます。

知財創造サイクル



世界で最も革新的な企業／機関 トップ100社に選出

2013年11月、AGC旭硝子は、トムソン・ロイター社が主催する「Top100 グローバル・イノベーター2013」アワードにおいて、世界



で最も革新的な企業／機関トップ100社に選出されました。

この表彰は、知的財産や特許に関わる世界的な動向を分析し、技術革新の中核を成す企業を選出するものです。評価基準(注1)は「成功率」「グローバル性」「影響力」「数量」の4項目で、AGC旭硝子は「影響力」と「グローバル性」において特に高い評価を得ました。今後も、既成の枠組みにとらわれない発想で、革新的な技術、製品・サービスを追求していきます。

(注1) 具体的には、「特許登録率」「特許ポートフォリオの世界的広がり」「引用における特許の影響力」「特許数」を指します。

コーポレート・ガバナンスの考え方

AGCグループは、経営監視機能と経営執行機能を明確に分離し、経営監視機能を強化することをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。健全かつ効果的なコーポレート・ガバナンスにより経営を適切に監視し、効率的で透明性の高い経営の実現を目指しています。

経営監視体制

取締役会

社外取締役の意見・チェックにより、
取締役会の客観性と透明性をさらに向上

AGC旭硝子の取締役会は、3名の社外取締役を含む計7名の取締役で構成されており(注1)、AGCグループの経営基本方針承認と経営執行の監視機能を担っています。

経営監視機能を強化するため、AGC旭硝子は2002年から社外取締役を採用しています。その選任にあたっては、日本の会社法の要件に加え、独立性を確保するため独自の基準を設定しています(p.40参照)。また、3名とも有価証券上場規程および同施行規則に定められた独立役員の基準を満たしています。

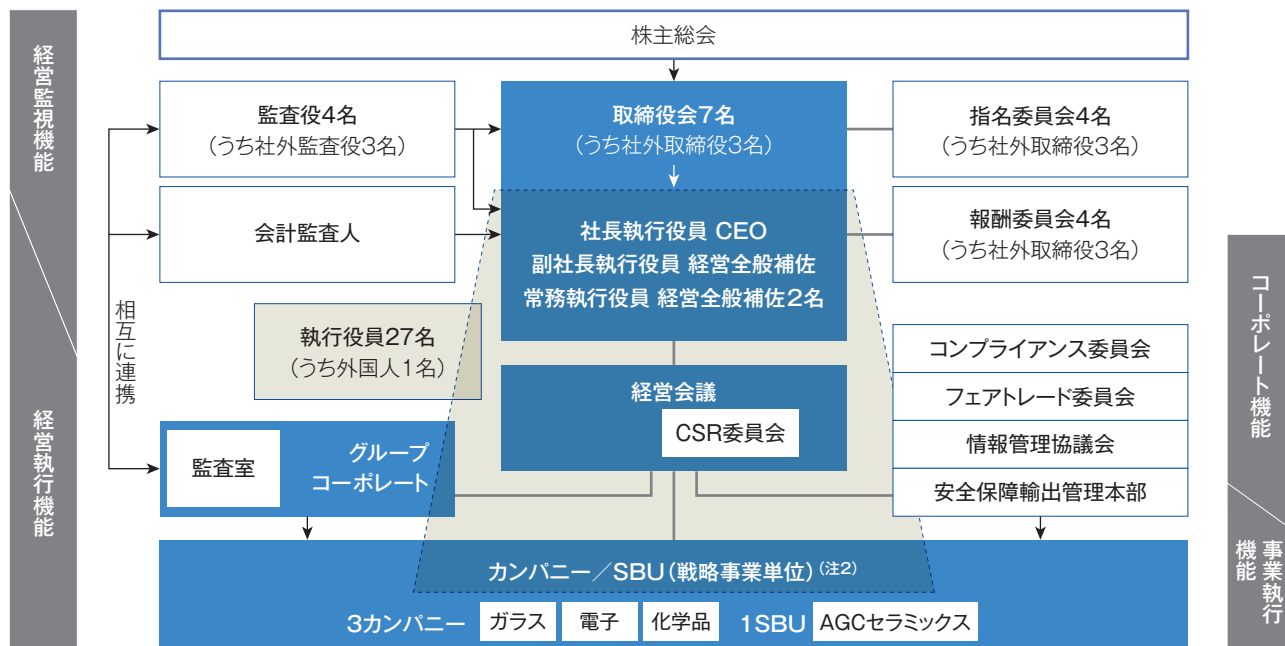
社外取締役の任期は1年で、グローバルな企業経営における豊富な知見や経験に基づき、AGCグループの取締役会に独立した立場から経営全般に対する提言を行っています。

(注1)2014年3月28日現在。

2013年度の取締役会

- 開催回数:13回
- 社外取締役の取締役会への出席率:97%

コーポレート・ガバナンス体制の概要(2014年3月28日現在)



(注2)カンパニーは売上高が概ね2,000億円を超え、グローバルに事業を展開する事業単位と位置づけしており、現在、「ガラス」「電子」「化学品」の3つのカンパニーを設置。それ以下の規模の事業単位はSBU(戦略事業単位:ストラテジックビジネスユニット)として位置づけています。



監査役会

監査役が取締役の職務執行を監査するとともに 会計監査人や内部監査組織と連携し 監査の実効性を向上

AGC旭硝子は、監査役制度を採用しています。監査役は、経営会議などの重要な会議に出席するとともに、代表取締役との会合を定期的に行うことで、取締役の職務執行を監査しています。また、会計監査人や内部監査機能を有する監査室と連携し、監査結果などの情報を入手したり、意見を交換するなどして、監査の実効性を高めています。なお、監査役4名のうち3名が社外監査役で、3名とも会社法の要件に加え、当社が定める独立性に関する基準（右記参照）を満たしています。さらに、有価証券上場規程および同施行規則に定められた独立役員の基準も満たしています（注3）。

（注3）2014年3月28日現在。

経営監視機能をより強化させる組織

指名委員会・報酬委員会を2003年にいち早く設置

AGC旭硝子は、取締役会の任意の諮問機関として、2003年から「指名委員会」と「報酬委員会」を設置しています。

各委員会の人数・役割・開催回数（2013年度）

人数	役割	開催回数
指名委員会4名 （うち社外取締役3名）	取締役および執行役員候補者の審議、取締役会への推薦	5回
報酬委員会4名 （うち社外取締役3名）	取締役・執行役員に関する報酬制度、株主総会に提案する取締役の報酬枠・取締役賞与、執行役員の報酬額を審議	4回

社外役員の独立性に関する基準

AGC旭硝子は、社外取締役と社外監査役の独立性を確保するための基準を定めています。

社外役員の独立性に関する基準（要約）

- AGCグループの事業領域において競合する会社、AGCグループを主要取引先とする会社（注4）、AGCグループの主要取引会社（注4）、AGC旭硝子の大株主の業務執行者でないこと。
- AGCグループと役員報酬以外に多額の金銭関係にないこと（注4）。
- AGCグループを担当する監査法人の社員でないこと（注4）。
- 重大な利益相反や、独立性を害するような事項がないこと。

（注4）過去3年間において。

（注）全文は「有価証券報告書」などをご覧ください。

社外役員のサポート体制

実効性のある監督、監査ができるよう 内部組織が社外取締役・社外監査役と連携

社外取締役が、当社に関する十分な情報に基づき実効性のある監督ができるよう、取締役会の事務局である社長室が、取締役会の開催通知や資料の事前配布を行うとともに、取締役会付議事項について事前に十分な説明を実施しています。

また、社外監査役が監査の実効性を高めることができるよう、監査役会事務局が、監査役会の開催、代表取締役や会計監査人との会合等の調整などを補助しています。

経営執行体制

執行役員が迅速かつ適正に業務を執行するとともに 各カンパニーが機動的に業務を運営

AGC旭硝子の経営執行機能は、社長執行役員以下の執行役員が担っています。社長執行役員の諮問機関として、経営会議を設置し、経営執行の意思決定および事業経営の監視について審議しています。事業執行においては、カンパニー（社内疑似分社）制を導入しており、グローバル連結運営体制を採用するとともに、責任と権限をカンパニー／SBU（戦略事業単位）に大幅に委譲しています。

報酬制度

基本的な考え方

客観的で透明性の高い報酬制度を確立

AGC旭硝子は、報酬原則において、役員報酬全般に関わる基本的な姿勢および考え方を次の通り定めています。

- 競争優位の構築と向上のため、多様で優秀な人材を引きつけ、確保し、報奨することのできる報酬制度であること
- 企業価値の持続的な向上を促進するとともに、それにより株主の皆様と経営者の利益を共有する報酬制度であること
- AGCグループの持続的な発展を目指した経営戦略上の業績目標達成を動機づける報酬制度であること
- 報酬制度の決定プロセスは、客観的で透明性の高いものであること

報酬の構成

社外取締役は固定報酬のみとし、社内取締役は固定報酬と業績連動報酬で構成

報酬の構成は、社外取締役および監査役については、固定報酬である「月例報酬」のみとしています。執行役員を兼務する取締役については、月例報酬と、業績連動報酬である「賞与」および「株式報酬型ストックオプション」で構成しています。

賞与は、単年度業績目標達成へのモチベーション促進を目的として、単年度の連結業績に応じて変動する仕組みとしています。また、株式報酬型ストックオプションは、株価変動のメリットやリスクについても株主の皆様と共有し、中長期での業績および企業価値向上への貢献意欲や士気を向上させることを目的としています。

取締役および監査役の報酬の構成

	報酬の種類		支給対象者
取締役	固定報酬	月例報酬	全ての取締役
	業績連動報酬	業績連動賞与	執行役員を兼務する取締役
		株式報酬型ストックオプション	社外取締役を除く取締役
監査役	固定報酬	月例報酬	全ての監査役

報酬の決定方法

報酬の決定プロセスに関する客観性・透明性を確保

報酬委員会において、報酬原則を踏まえ、取締役および執行役員の報酬制度・水準などを審議し、取締役会に提案するとともに、報酬支払結果を検証することによって、報酬の決定プロセスに関する客観性および透明性を高めています。

取締役および監査役の報酬の支給人数および支給総額(2013年度)

	支給人数 (名)	支給総額 (百万円)
取締役	9	378
うち社外取締役	4	48
監査役	5	93
うち社外監査役	3	57

(注1) 2013年3月28日開催の第88回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名(うち社外取締役1名)および監査役1名に係る報酬が含まれています。

内部統制

財務報告に関する内部統制の整備・運用・評価

AGC旭硝子は、会社法施行に対応し、コンプライアンス体制を含めた適正な業務遂行の仕組みを改めて確認するため、2006年5月の取締役会において、「内部統制に関する基本方針」を決議しました。

また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度の導入にともない、「AGCグループ財務報告に係る内部統制実施規程」を定め、財務報告に関する内部統制の整備・運用・評価を行っています。

2013年度の内部統制は有効であると評価しており、独立監査人からは評価が適正であるとの報告を受けています。

取締役・監査役および執行役員

取締役



代表取締役
石村 和彦



代表取締役
西見 有二



取締役
藤野 隆



取締役
平井 良典



取締役(社外)
坂根 正弘



取締役(社外)
木村 宏



取締役(社外)
江川 雅子

2011年3月選任
指名/報酬委員会メンバー
(株)小松製作所 相談役
東京エレクトロン(株) 社外取締役
野村ホールディングス(株)
社外取締役
野村證券(株) 社外取締役

2013年3月選任
指名/報酬委員会メンバー
日本たばこ産業(株) 取締役会長

2014年3月選任
指名/報酬委員会メンバー
東京大学 理事

執行役員

社長執行役員

CEO
石村 和彦

副社長執行役員

経営全般補佐
(グループ改善活動・
電子事業・事業開拓担当)
西見 有二

専務執行役員

ガラスカンパニー
米州代表
與名本 径
ガラスカンパニー
プレジデント
田村 良明

常務執行役員

ガラスカンパニー
オートモーティブ事業本部長
石河 希久

ガラスカンパニー
ビルディング・産業事業本部長
(AGCガラス・ヨーロッパ 社長)
ジャン フランソワ エリス

経営全般補佐(財務担当)
社長室長
藤野 隆

ガラスカンパニー 技術本部長
中尾 泰昌

電子カンパニー プレジデント
島村 琢哉

経営全般補佐(技術担当)
技術本部長
グループ改善活動・事業開拓補佐
平井 良典

執行役員

ガラスカンパニー
戦略企画室長
大井 匡之
人事・総務室長
川上 真一

経理・財務室長
竜野 哲夫

CSR室長
松尾 時雄
AGCセラミックス(株) 社長
島尾 明伸

技術本部 生産技術センター長
瀧川 具也

AGCグループ中国総代表
新保 貴史

電子カンパニー
エレクトロニクス事業本部長
宮地 伸二

ガラスカンパニー
ビルディング・産業事業本部
副本部長 兼 同事業本部
日本・アジア事業部長
市川 公一

AGCグループ東南アジア総代表
小林 善則

電子カンパニー
ディスプレイ事業本部長
渡邊 一由

ガラスカンパニー
オートモーティブ事業本部
副本部長
岡本 喜八郎

電子カンパニー
電子ガラス事業本部長
井上 滋邦

技術本部 中央研究所長
渡辺 広行

化学品カンパニー プレジデント
根本 正生

化学品カンパニー
技術統括本部長
井手 孝康

電子カンパニー
ディスプレイ事業本部 副本部長
鷲ノ上 正剛

監査役

梅本 周吉
玉井 泉(社外)
芳賀 研二(社外)
原 徹(社外)

2014年3月28日現在

発行日 2014年5月(前回発行日 2013年5月)

将来に関する予測・予想・計画について

本レポートは、編集段階で入手できる最新の情報に基づいて作成していますが、将来予測などの情報については、事業環境の変化などにより、結果や事象が予測とは異なる可能性があります。あらかじめご了承ください。

旭硝子株式会社

www.agc.com

〒100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1

広報・IR室

電話:03(3218)5603 FAX:03(3218)5390

e-mail: info.ad@agc.com



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効利用に役立ちます。

